

〇〇

〇〇

上海

本省 三月廿三日後着

田中外務大臣

矢田總領事

第一七七號

江蘇省總工會執部及教育會等二十餘團體ノ代表者ハ二十二日南京市議會ニ會合シ南京事件交渉ノ爲英國公使近ク來寧スヘキカ同案ノ解決ハ須ラク不平等條約廢除ノ桎梏ヲ以テシ政府後援ノ爲即日「首都各界救國案後援會」ヲ組織シ同公使來寧後市民ノ大示威運動ヲ起スト共ニ同事件ニ對スル宣言及英國公使ニ告クル書ヲ發表スル事等ヲ議決シ後外交部ニ赴キ對英交渉方針ヲ質シタル趣ナリ
在支公使ヘ轉電セリ

昭和三年三月二三日午後六、四〇分發

南京事件交渉經過ニ關スル件

在英 松井大使

在米 松平大使

出中外務大臣

第五四號

南京事件交渉ハ各年仕電台第一九一號以來停頓シ居タル處本年二月二十三日南京政府外交部長黃郛ヨリ上海矢出總領事ニ對シ本件解決ノ希望申出アリタルニ依リ之ヲ懷曾ニ同總領事ハ隊ネテノ訓令ニ基キ我方ノ解決案（各年仕電台第一九二號支那側案ニ修正ヲ加ヘ且同案末項條約改訂ノ點ヲ削除セルモノ）ノ趣旨ヲ傳ヘタルニ黃郛ハ三月五日袁良ヲ矢出總領事ノ計ニ通ハシ外交部長公文案ヲ骨子トスル解決草案ヲ提出シタルガ要領左ノ如シ

イ、謝罪ハ右公文中ニ於テ遺憾ノ意ヲ表スル形式トスルコト

ロ、處罰及將來ノ保障ニ付テハ事件ニ參加シタル軍隊ハ既ニ解散シ

件關係者ハ既ニ法ニ依リ徵辦シタル旨並國民政府ハ軍民長官ニ通告

シテ在留日本人ノ生命財産ヲ切實保護シ居リ殊ニ現ニ共產黨ヲ

シタルニ依リ南京事件類似ノ事件再發ノ憂ナキ旨ヲ右公文中ニ記載

スルコト但シ軍民在留ノ處罰ヲ含マス

ハ、南京領事館及在留日本人ノ受ケタル損害ヲ賠償スルコト之カ爲メ

支調査委員會ヲ組織スルコト

ニ、右公文中ニ於テ不平等條約改訂ニ關スル希望ヲ表明スルコト

右ハ我方ノ要求ト同相當ノ慰問アルキ現在ノ南京政府ヲシテ此ノ點

件ヲ解決セシムルコト大局上待策ナリト認メラレ又英國側ニ於テハ同

國公使南支旅行ノ途次上海ニ於テ本件交渉ヲ進メ解決ヲ急キ居ル模様

アリ等々我方トシテキ大體支那側ノ案ヲ認メ謝罪モ文書ニ依リ謝罪

以テ満足シ又程潛ノ處罰ニ此ノ際南京政府ニ對シテハ強テ主張スルコト、シ此ノ方針ノ下ニ數次矢出總領事ヲシテ交渉セシメ、結果ニ於テモ則記公文案ニ多少ノ修正ヲ加ヘ處罰及保障ニ付テハ南京政府ヨリ日英的ニ外人保護令及休祖淵等ノ逮捕處罰令ヲ發シ之ヲ石公文ニ引用スルコト、シ具ノ他ノ諸點ニ大体我方ノ同意シ得ル程度ニ適合ヒタリ唯則記(一)不平等條約ノ點ニ付テハ支那側ハ内政主權ハ一新ノ政治的意義ヲ附シ居ル次第ナレバ文句ハ出來得ル限り撤消スベキモ本項全部ノ削除ハ對内關係上不可能ナリトテ之カ削除ヲ承認セザル上記ノ如ク南京事件自体ノ解決ニツキテハ我方トシテ出來ウル限リ撤消ヲ爲スニ吝ナラサルモ本項ノ如キ南京事件トハ何等ノ關係無キ點ヲ本件解決ニ詰付ケムトスルハ頗ル當ヲ得サルノミナラス其ノ文面等ヨリ見テ南京政府承認問題ニモ關係アルヤニモ疑ハレタルニ付支那側カ右ノ點ヲ固執シテ具ノ記ノ點ニ於テ略々一致セル本件ノ解決ヲ期ス

セザルニ於テハ假令英米カ支那側ノ主張ニ讓歩シテ解決ヲ爲ストモ
万トシテハ此ノ際本件解決ヲ爲スヲ要セズト思考シ此ノ趣旨ニ於テ
總領事ヲシテ交渉セシメツ、アルモノモ支那諒ノ讓歩ヲ見
尙則記南京政府ノ外人保護令及巡捕處罰令ハ交渉成立ヲ俟タス三月十
六日自發的ニ發セラレタリ

在英大使宛ノ分ニハ在歐各大使ニ暗送アリタシト附記スルコト

昭和三年三月二三日午後七時發

南京事件他國側交渉經過ニ關スル件

在英 松井大使

在米 松平大使

田中外務大臣

第五五號

往電合第五四號ニ關シ

一、本件英國側交渉ハ同國公使南支旅行中三月五日ヨリ上海ニ於テ同公使ト東郭トノ間ニ行ハレ十一日一段落ヲ告ゲタル趣ニテ其ノ解決ハ陳謝、處罰、保障、賠償等大體我万ト同様ナル外本件解決ニ關シ中ニ於テ英國軍艦ノ南京砲撃ニ言及スベク之ニ對シ英國側ヨリ右ノ英國居留民生命財産ノ保護上已ムヲ待サル措置ナリシ旨ヲ回答シ又條約改訂問題ニ對シテハ一昨年來ノ二回ノ覺書ヲ引用シテ英國政府ノ同情的態度ヲ表明セル回答ヲ與ヘントスルモノナリト云フ右ノ點ニ關シ

賠償金支拂方法ニ重キヲ置キ年賦拂トスル場合ノ第一次支拂金額等其
本的事項ニ付交渉ヲ爲シタルモノノ如シ英國公使ハ此ノ際本件ヲ解決
スルヲ待束ト認メ右ノ程度ニテ本件解決方本國政府ニ稟請シタル由ニ
テ交渉成立ノ上ハ同公使自身南京駐在總領事ヲ伴ヒ南京ニ赴キ本件公
又交換ヲ行フト共ニ同地領事館ヲ再開スル豫定ノ趣（我方ニ於テハ客
年十二月下旬南京事件解決ト關係ナク日英的ニ領事ヲ城内ノ原領事館
ニ復歸ヒシメタリ）ナルカ取近英國政府ヨリ飽擊陳謝及條約改訂ノ一
項ハ承認シ難キ旨同訓アリタル由ニテ本々交渉成立ニ至ラス
二、本國側ニ對シテモ大体同様ノ交換行ハレ居ルモノノ如ク詳細不明
ナルモ未タ本國政府ヨリ同訓ナキ趣ナリ佛伊ニ對シテモ大同小異ノ由
出アリタル由ナルモ交渉ハ餘リ進捗シタリトモ思ハレズ
在英大使宛ノ分ニハ

「在歐各大使へ暗送アリタシ」ト附記スルコト

南京

本省 三月廿四日附著

出中外務大臣

岡本領事

第三八號

二十三日龍用ヲ以テ外交部ニ袁良ヲ訪問セル處恰ニ英國總領事來訪
居リタルカ袁ハ英支間交渉ニ付大要左ノ通話レリ

(一) 本來今回ノ交渉開始ハ英國公使ヨリ福州官憲ヲ通シテ該省有
甲田ヲ爲シタルニ始マリタル次第ニシテ黃部長英公使累次ノ意見ニ
於テ意見一致シ條約改訂問題亦英公使ノ同意ヲ得公使ハ之ヲ其意
ヲシテ文書ニ認メシメ當方ニ交付セル次第ニシテ英ノ砲臺問題ニ
キ英國側ニ於テ遺憾ノ意ヲ表セサル代リ支那側ノ謝罪ニ要求スル
ル事ニ決シ居リ確實ニ圓滿解決ヲ見タルモノト信シ英國公使ハ
際ハ大々的ニ歡迎ヲ爲ス事ニ打合セ居リタル處今ニ至リ則チ

テ條約問題ヲ拒絕スルニ至リタルハ不信ノ甚タシキモノニシテ
國ノ公使トシテ不見識極マレリトテ黃部長大ニ憤慨シ急遽歸京
第ナリ然ルニ英公使ハ如何ニカシテ國潮解決ヲ爲シタシトテ昨夜急
列車ニテ
上海
南京
ニ駐在總領事ヲ當地ニ派シ今ヤ形式ヲ代ヘテ條約

問題ヲ解決シ度シトテ黃部長ニ面會ヲ求メ居レルキ部長ハ其ノ要無シ
トテ面會ヲ拒絕シ居レリ尙英公使ハ是非來ル日曜ニ入京シ度旨申込
來レルキ事件解決セサル以上其ノ必要無カルヘシトテ第二司長ヲシテ
回答セシメタル者ナリ英公使カ當初文書ニ迄認メ諸條件ヲ承認シタ
ハ當然英政府ト打合せノ上ナリト思料シタルニ突如之ヲ撤回スルニ至
リタルハ日本側ヨリ何等英國側ニ申入有リタルニ非スヤト拂腹スル者
有リ

(一) 本來南京事件ノ解決ハ先ツ第一ニ日本トノ間ニ爲シ

ノ意同ナリシカ英公使ヨリ突如トシテ福州官憲ヲ通シテ甲申年
ヲ以テ日米兩國ニ對シ同時ニ發セシ次第ナルヲ以テ黃部長ト
ノ際切メテ日本關ト丈ニテモ是非圓滿解決ヲ爲シタク條約問題
モ日支間現行條約ハ本年ヲ以テ滿期トナル一舉ニモ有リ南京事件
別個ノ形式ニ於テ支那國民ノ安望ニ應スヘキ條約改訂意志有ル旨
文交換ヲ爲スカ如キハ左シテ不同意ヲ唱ヘラルル要無キニ非ス
際日本ノ好意有ル再考ヲ切望ス云々

〇
〇
〇
〇

上海

廿四日午後

本官

三月廿五日附有

田中外務大臣

矢田禮順事

第一七九號

三月二十四日袁良來訪附景ヨリ歸來セル趣ヲ述ヘテ交渉ノ頓挫ニ關シ其
際向本領事閣下宛電報第三八號ノ趣旨ヲ述ヘ此ノ際日支間ニ圓滿ナル
決ヲ計リ度旨ノ實鄧ノ傳言ヲ述ヘタルニ付日支單獨交渉ハ今日ニ於テハ
先、本ニ對シ紙兼スルニ及ハスト存スル干渉約問題ハ到底日本政府ノ何
意ヲ得ル見込無ク右ノ點ヲ實方ニ於テ讓歩スレハ我方ノ賠償額ハ英、米
ノ大レニ比シ遙ニ小額ニテモアリ本件ニ關スル凡テノ問題ヲ即時解決ス
ルコト困難ナラスト認ムル旨ヲ答ヘタル處大體賠償總額ハ幾何ナリヤ自
分限リニ承知シ度ト云ヘルニ付申告額ハ約三百萬弗ナルモ右ハ素ヨリ查
定ヲ要スヘク日本政府トシテハ不富ノ要求額ヲ支持スル考毛頭無シト云

ヘタルニ哀ハ右シ査定額力假ヘハ數十萬弗ナリトスレハ日支兩國ノ調
査委員曾ハ卑ニ形式ニ止メ即時支拂フコトヲ待ヘク唯困難ナルハ條約
ニ照スル除填ナルカ支那側ニ於テ讓歩シ別ニ公文ヲ交換スルコトトセ
ハ日本政府ハ兩足スルヤト質問セルニ付右ハ貴下ト自分トノ修正案ニ
テ既ニ政府ニ電報シ居レルモ承認ヲ得ルコトハ困難ナルヘシト答ヘタ
ルニ兎ニ用黃部長ノ希望今一應本國政府ヘ稟請シ其ノ回訓ヲ得度シト
云ヘルニ付之ヲ承諾シ直ケリ察スルニ英支交渉ノ頓挫ハ英國公使ノ面
目ヲ失墜セシメタルコト勿論ナルカ同時ニ黃郛ノ立場ヲ惡クシタルヲ
以テ黃郛ハセメテ日支間ノ交渉ヲ解決シ其ノ通子ヲ恢復スル希望ト存
セラル

00

00

昭和三年二月二十六日午後六、三〇分發

南京事件解決方ニ關スル件

任上海矢田總領事

山中外務大臣

第五一號

前報第一七九號ニ關シ

小トテ條約改訂問題ニ對スル帝國政府ノ同等的態度ハ今後トモ機會有ル
ゴトニ探返シ之レヲ表明スルニ躊躇セサルコトハ任電第三〇號ノ通りナ
リト雖モ南京事件ハ革命軍ノ犯シタル國際的罪惡ナルコト否定シ難キ
トコロナルガ故ニ之カ解決ニ當リ恰モ交換條件ノ如キ形ニテ條約改訂問
題ヲ提起スルコトハ本件解決ニ對スル支那側ノ誠意ヲ疑ハシムル所以ナ
リ此テ條約改訂問題ニ關スル公又ノ交換ハ假令之レヲ南京事件ノ公文ト
切離スモ此際之レヲ行フコトハ我方ノ到底承認シ得サルトコロナリ

市國政府ニ於テハ南京政府及黃
漢運ヲ衷心ヨリ希望シ居ルガ故ニ本件ノ如キ不愉快ナル懸案ハ出來得ル
限リノ讓歩ヲ爲シ以テ急速解決ヲ圖リツツアル次第ニテ右急速解決ハ南
京政府ノ信用誅ヲ落シ基礎ヲ強固ナラシムル上ヨリ至極メテ必要ナルコ
ト、信スルニ付南京政府ニ於テ其非ヲ非トスル坦白ナル態度ヲ以テ單純
ニ南京事件ノミヲ伏スルノ態度ニ出デムコトヲ切望スル旨馬ト支那側ニ
向ヘ其ノ熟慮ヲ求メラレ度シ
任立公使及南京領事ニ特電アリ度シ

上海

廿七日後發

本省

三月廿八日開看

出中外務大臣

矢出總領事

第一八六號

三月二十七日袁良來訪任電第一七九號ニ關スル御回訓ヲ尋ネタルニ付、電第五一號御電訓ノ趣旨馬ト申聞ケタル處然ラハ條約改正ニ關スル點、又ノ日附ヲ南京事件解決公文ヨリ避ラシ「今回南京事件解決シタルニ付、ムターノ又句無シテモ不可ナリヤト云ヘルニ付、南京政府ハ何故ニ非ヲ非トシテ芳ラシク承認シ得サルヤ日附ヲ別ニスルモ同時ニ發表スレハ同シコトナリ大ニテハ到底本省ノ同意ヲ得ル見込無シト據附ケタルニ何ホの方法ハ無キモノニヤト助言ヲ求メタルニ付、南京事件解決發表サルルヤ我國ニ於テモ必ス右ニ關スル外務大臣ノ新聞記者ニ對スル談話若ハ「ステートメント」ノ發表アルヘク其ノ際昨年四月聲明シタルト同様ノ趣旨ヲ

繰返ス程度ノコトナラハ重ネテ収次キヤルヘシト述ヘタルニ然ラハ
日下ノ御注意ハ南京黃部長ニ電報スヘシトテ引取りタリ次テ本官米
公使ヲ往訪シタルニ南京事件ニ關スル日支間ノ交渉ノ模様ヲ尋ネタル
ヲ以テ本官ハ南京側力條約改正云々ノ文字削除ヲ承知セサルヲ以テ其
ノ確ナリト述ヘタルニ僅々談話アリタル後同公使ハ右條項ハ全然別個
ノ公義トスレハ日附ノ如キハ同日ニテモ左支無シト思フカ唯米支間ニ
ハ絶望陳謝ノ件アリ當初ノ早業ニハ賠償ノ要求モアリ到底問題トナラ
ス日分ハ從テ研究中ニテ支那側力眞ニ解決ヲ欲シ居ルヤ否ヤニ付テキ
疑問ヲ抱キ居ルモノナルカ見如何ト質問セルニ付少クトモ日支間ノ
解決ハ南京政府ノ取手欲スル處ナルヘシ第一山東出兵見合方再ヒ支那
政府ヘ要求スルニ便ナル事第二黃郛ノ面子問題ナリ英米方面ニ對シテ
ハ解決即チ賠償金ノ支出ヲ意味シ北伐ヲ控ヘテ財政窮乏ノ際南京政府
トシテハ可ナリ苦痛ナルヘシト答ヘタルニ同公使ハ重ネテ南京政府カ

條約改正ノ條項ヲ固執スル理由如何ト云ヘルニ付右ハ北京ニ於テ
公使ト北京政府トノ間ニ日支通商條約改訂ヲ交渉シツツアル事爾京政
府ノ立場上默認シ難キ故北京政府ニ對スル對抗的意味ヲ含ムモノナル
ヘシト答ヘタルニ故經其ノ條ノ事情ヲアルヘシト首肯シ自分ハ來ル三
十一日迄當地ニ在リ其ノ後不支間ニ何等發展アラハ御知ラセスヘシト
云ヘリ同佛國總領事ハ兩三日間本旨ヲ來訪シ交渉ノ模様ヲ尋ネタルニ
付大體説明シ直キタルニ右シ日本ニ於テ支那側ト本件ノ交渉纏マルニ
於テハ遲滯無ク御知ラセアリ度佛國側ハ日本ノ取極ニ追從シテ解決ス
ヘシト申出アリタリ

上海

卅一日後發

本省 三月卅一日後有

出中外務大臣

矢田總領事

第二〇二號

正電第一九七號不支交渉ニ關シ

一、英國總領事曰ク支那側ハ我等ニ讓歩セサリシ點ヲ米國ニ讓歩セザル點アリ唯ニ英支交渉ヨリモ良クナリ店レリ自分モ右米國ノ例ニ依リ決スルコト待策ナリト信ス英國公使モ勿論同意見ナルヘシ尤モ米國政府ヨリハ未タ何等訓令ナシ

二、師、伊兩國總領事ハ本旨ニ對シ日本政府ハ如何ニセラルルヤト質問シタルニ付支那側ニ於テ條約問題ヲ収束セサルニ於テハ日本政府ハ此ノ際強テ解決セサルヘシト答ヘタルニ兩國總領事ハ我等ハ損害少キコト

ニテキアリ條約云々ハ左シテ里晏トモ思考セラレサルニ付米國ニ
ル外無カルヘシト逃ヘタリ

上海

本省 四月二日後着

出中外務大臣

矢田總領事

第二〇六號

南京發賣大臣宛電報

第四二號

本市日將介石ニ面會シタル處外間ニハ絶對ニ秘密ナルモ明卅一日出
州ニ同フ旨内話シタル後左ノ通詰レリ

武漢廣東方面共北伐ヲ中止トシテ意思完全ニ疎通シ武漢軍ヲ李宗仁
以來積極的北進行動ヲ起シ廣東方面ヨリハ雷ニ車ヲ派遣スルノミナラ
軍費ヲ出來待ル限リ支出スルコトニ李濟陳炯明ト打合ヲ了セリ各後方ニ對
ル疑惧ノ念全然去リタルヲ以テ全力ヲ拏ケテ所期ノ目的達成ニ邁進スル
ヲ得乍然今尚干戈ニ訴フルコト無クシテ圓滿ニ解決ヲ爲シ得ハ之ニ越

タルコト無シト考ヘ居リ何寺氣付ノ點アラハ黃郛ト談合ヲ請フ
南京事件解決ニ關シ日英側トノ不成立ハ遺憾ナリ條約開議ノ事
ノ面目ヲ立テシムル程度ニ於テ全然南京事件ト別個ニ日本政府
聲明ヲ繰返サルルノ程度ニテ宜敷ク右聲明ヲ發セラレタリト今更
條約改訂ニ着手サレ度シト要望スルニ非ス特ニ日本側トノ交渉不
ハ遺憾ナリ只今黃郛部長ヨリ侍タル報告ニ依レハ米國側トハ成立
候ナリ

先般悉々御願致シ置キタル通濟南方面居留民保護ニ付テハ自分
斷シテ責任ヲ負フヲ以テ重テ出兵スルカ如キ事無キ様日支間
勿論朝野ノ同情ヲ表セラルル自分ヲシテ成功セシムル意味ニ於
非獨一考ヲ請フ云々

南京事件解決ニ關スル日本政府ノ聲明案

各年三月突發セル南京事件ニ付テハ同年四月關係國代表者ヨリ支那國民政府當局ニ提出シタル要求ノ趣旨ニ從ヒ國民政府ノ謝罪、事件關係ノ處罰、將來ニ對スル保障及完全ナル損害賠償ノ條件ノ下ニ本件ヲ迅速ニ解決セムコトヲ希望シ此ノ方針ヲ以テ機會アル毎ニ支那側ト交渉里ネ居リタル處最近南京政府ヨリ本件ヲ解決セムトスル積極的態度ヲ示シ來レルニ依リ帝國政府ハ支那側ノ意思ヲ諒トシ其ノ立場ヲ考慮シタル上我々要求ノ解決條件ヲ出來得ル限り緩和シ南京政府ノ謝罪モ昔ニ依ルヲ以テ満足シ處罰及將來ノ保障ニ付テモ幾ニ同政府ノ發シタル在留外國人保護及犯人逮捕處罰ニ關スル二個ノ命令ヲ以テ必要ナル措置ヲ執リタルモノト認ムル等我方トシテ能フ限りノ好意ヲ示シ以テ急速確決ヲ期シタリ右ノ結果南京事件自体ノ解決ニツキテハ日支之間

ニ全然意見ノ一致ヲ見タルカ支那側ハ本件ニ關聯シテ不平等條約等
問題ヲ提起シ來レル處帝國政府トシテハ本問題ニ對スル從來ノ同情的
態度ニハ毫モ變化アル次第ニ非サルモ本問題ト南京事件トハ全然別物
ノ問題ナレハ之ヲ關聯セシムルノ理由毫モ之無ク又關聯セシムヘキ
ノモニモ非ストノ見地ヨリ之レカ引離シテ主張シ此點ニ付目下支那側
ノ反省ヲ求メ居ル次第ナリ

支那カ内ニ國政ヲ統一シ外ニ列國ト對等ノ關係ニ立ツニ至ラムコト
日本國民ノ切望シテ已マサルトコロニシテ此ノ見地ヨリ支那國民ノ目
前ニ基ク國民的要望ニ對シ充分ノ同情ヲ有シ具ノ合理的達成ニ協力ス
ヘキコトハ屢次ノ聲明ニ依リ明瞭ナル所ナリ從テ支那ノ對外條約關係
ニ關シテモ時勢ノ變遷ト共ニ改訂ヲ適當トスルニ至レルモノニ付テハ
正當ナル順序ト方法トヲ以テスル限り充分ノ好意的考慮ヲ考ヘ列國
共ニ之カ實現ニ同ツテ援助ヲ惜マサルヘキハ今更言フヲ俟タズ

コ
ロ
ナ
リ
ト
云
フ
ニ
在
リ

コ
ロ
ナ
リ
只
南
京
事
件
ノ
解
決
ニ
當
リ
之
レ
ト
直
接
ノ
關
係
無
キ
如
何
ナ
ル
問
題
ヲ
關
聯
セ
シ
ム
ル
コ
ト
ハ
同
事
件
ノ
性
質
ニ
顧
ミ
日
本
政
府
ト
シ
テ
同
意
シ
得
ザ
ル

南京 七日午後

本旨 四月八日附着

田中外務大臣

岡本領事

第五〇號

本七日朝長良來訪、**郭**ノ申渡シトシテ特ニ次官、局長ニ御傳ヘテ請フ
トテ左ノ通詰レリ重複ノ嫌ヒアルヲ特別ノ依頼ナルニ付電報ス
照京事件ニ付テハ部長就任ヨリ先ツ日本ト解決シ度キ考ヘニテ各年
天田總領事ト會談シタルハ御承知ノ通ナリ而シテ幾ニ二月末貴官着任
後曾見ノ際十日支間ニ於テ先ツ本件解決ヲ試ミタシト御話シタル程ニ
テ決シテ故意ニ不調ヲ先ンシタル次第ニ非ス（股汝耕ヨリ此ノ點本
旨ニ於テ不愉快ニ考ヘラレ居ル旨報告アリタル出）米國トノ間ニ案外
容易ク纏リタルハ部長キ聊カ意外トセシ次第ナルカ實ハ條約問題ノ如
キ米國トノ交換公文ニ依リ支那ニ駁テ付ニ何等得ル所アリタリトハ考

へ居ラス忌憚ナク云へハ石ニ依リ國民ヲ欺ケルニ過キス部長トシテハ
心此ノ際日文ノ關係ヲ改善シ萬般ノ問題ニ付兩國提携シテ他外國ニ拮抗
スルノ基礎ヲ作り度ク希望シ居リ辛ニシテ國民政府ニ於テモ外交ニ關シ
テハ部長ノ意見本々曾テ容レラレサル事無キ狀態ナルヲ以テ此ノ際日本
トノ間ニ兩事ヲ解決シ得ハ一層立場ヲ良好ナラシメ自分ノ目的達成
ニ資スル所大ナリ就テハ條約問題ヲ全然別個ニ取扱ヒ日本側ニ於テハ單
ニハ各年三月間內閣ノ聲明及境內閣員ノ後ノ聲明ハ今尙變ル事ナシ一
般ノ聲明ヲナサレ之カ發表モ事ヲ解決發表ノ翌日トナスモ可ナルニ付何
トカ此ノ機會ニ御考慮ヲ願ヒタシ

廈門事件ニ關シテモ嚴重各方面ヨリ越規行動ノ取締ヲ命シタル次第ナル
カ實ハ本件就ニ漢口ニ於ケル鮮人引渡問題等小問題ニシテ而カモ斯ノ如
キ紛糾セル所以ハ彼等鮮人カ凡テ國民黨員トナリ居リ自然他方黨部ニ於
テ同前シ中央黨部又二三有力者ニシテ彼等ヲ國事犯トシテ取扱フ可ク主

張スルモノアルニ依ル次第ナルヲ以テ近ク李烈鈞譚延闓陳友仁蔣介石
有リ百全部ヲ發意者トシ此ノ際鮮人ヲ凡テ國民黨ヨリ除外スルノ案ヲ
テ居リ安スレハ彼等中ノ不逞分子ヲ一網打盡日本側ニ引渡ス事トナシ
ク考ヘ居レハ上海租界事ヨリ甲取セル廻リ本件解決ニモ特別ノ考慮ヲ
拂ハレタシ事實日本關係ノ事件解決ニハ頗ル考慮致シ居リ過日廈門ニ於
テ不~~解~~誤ツテ良民一名ヲ射殺シタル事件ノ如キ米國ハ直ニ五千五百弗ヲ
賠償トシテ文出シ謝罪及處罰ヲ實行シタル爲メ地方官民一入氣勢ヲ
ケ居リ爭論ハ甚ナリ居レルモ厚田凡事件解決ニ系ヲ及ホス可キヲ虞レ外
父由ヨリハ待ニ之ヲ發意セサル事トナシタル次第ナリ云々

昭和三年七月二十七日調

南京事件交渉經過

(昭和三年交渉再開關係)

亞細亞局第一課

一、南京事件交渉再開ニ至ル迄ノ經過概要

昭和二年三月二十四日南京事件ノ善後處置ニ關シテハ關係國タル日、英、
米、佛、伊ノ五國共同シテ支那側ニ對シ交渉スルノ方針ヲ以テ右關係國
間ニ協議ノ結果同年四月十一日在漢口五國總領事ヨリ右通牒ヲ國民軍總
司令蔣介石ニ通告スル處アリタリ

一、虐殺傷害侮辱並損害ニ付責ニ仕スヘキ軍隊ノ指揮官及之ニ關與ス
ル者ニ對シ嚴重ナル處罰ヲ加フルコト

二、國民軍總司令ヨリ文書ヲ以テ謝罪ヲナシ該文書中ニ外國人ノ生
命財産ニ對スル一切ノ暴行煽動ヲ行ハサル旨ノ明約ヲ含マシムルコ
ト

三、人的傷害及物的損害ニ對シ完全ナル賠償ヲ爲スコト

右同文通牒ニ對スル支那國民政府ノ回答ハ各國別ニ文句ヲ異ニセルノミ
ナラス則記要求ヲ卒直ニ受諾シ居ラサルヲ以テ關係國ハ之ヲ以テ不滿意

ナリトナシ第二回通牒發送方ニ關シ關係國間ニ協議ヲ重ネタル處議繼
ス殊ニ國民政府力之ヲ應諾セサル場合直チニ制裁手段ニ出ツヘキヤ否ヤ
ニ付各國ノ意見一致セス帝國政府ニ於テハ五國協調維持ノ爲幹施ニ努メ
タルモ遂ニ各國同一ノ步調ニ出テ難キニ至リ他方此ノ間新ニ成立シタル
南京政府ハ責任ヲ以テ本件解決ニ富ルノ意思アリト認メラレタルヲ以テ
日英兩國ハ各單獨且非公式ニ同政府側ト交渉スル處アリ次テ六月十六日
北京五國公使會議ニ於ケル協議ニ依リ各國任意ニ支那側トノ間ニ單獨交
渉ヲ進メ隨次具ノ經過ヲ關係國側ニ披露スルコトニ決定セリ依テ我方ニ
於テハ右方針ニ依リ交渉ヲ進メタル上兩足ナル結果ヲ得ル見込ミアル場
合ニハ正式解決ノ形式等ニ付改メテ關係列國ト協議スヘク尤モ場合ニ依
リテハ我方ノミニテ單獨解決ヲ遂クルコトアルヘキ意嚮ノ下ニ爾來伍朝
愼ヲ通シ南京政府ト交渉ヲ繼續シ來リタル處客年七月十二日伍外交部長
ノ代理トシテ敦交渉員ヨリ在上海清水總領事代理ニ對シ本件解決基礎案

南京事件交涉再開

劉文忠公
李氏之江陰公之墓
市官所題

南三田山腰山下、新築の跡あり、
日英両士の軍地且此處を隔るなり

[illegible][illegible]

其供係屬二

[illegible][illegible]

兒ルヤ南京政府ハ本邦ニ
ニ對シテハ既ニ非公式
ニ關スル帝國政府ノ意
ル次第ヲ有リタルヲ以テ
我方ニ於テ平成ルヘシ
年十二月左ノ如ク方針ヲ

(附屬書第一號)ヲ呈示スル處アリタルカ之ニ對スル
ヲ回答スルニ至ラサル間ニ南方政府ノ變轉ヲ來シ本國
ク停頓ノ狀態ニ陥レリ

南京事件交渉再開

南京事件交渉再開
王正廷

見ルヤ南京政府
不ニ對シテハ
件ニ關スル
次第ヲ有
我万ニ
年十二月

(附屬書第一號)ヲ呈示スル處アリタルカ之ニ對スル帝制政府ノ確見
ヲ回答スルニ至ラサル間ニ南方政府ノ變轉ヲ來シ不平等交渉ハ其ノ範圍
ノ停頓ノ狀態ニ陷レリ

南京事件交渉再開

(一) 交渉再開ノ準備

其ノ後客年九月十五日漢寧鎮政府ノ合同ヲ見ルニ
ノ再開ヲ希望スルニ至レリ
意圖ヲ通シタル形跡アリ又許崇智等ハ本件ニ關スル
採ル使命ヲ以テ渡日スルヤニ傳ヘラレタル次第
政府ニ於テ本件解決ノ意思有ルニ於テハ双方ニ
交渉ヲ再開スルコトヲ適當ナリト認メ客年十二月
シ且訓令セリ

(イ) 交渉再開方針ノ決定

一 交渉再開ノ時期

(附屬書第一號)ヲ呈示スルアリタルカ之ニ對スル帝國政府ノ意見
ヲ回答スルニ至ラサル間ニ寧ろ政府ノ要請ヲ來シ本件交渉ハ其ノ結果
ク停頓ノ狀態ニ陷レリ

南京事件交渉再開

(一) 交渉再開ノ準備

其ノ後客年九月十五日漢寧兩政府ノ
ノ再開ヲ希望スルニ至レルエ
意嚮ヲ通シタル形跡アリ又
採ル使命ヲ以テ渡日スルヤ
政府ニ於テ本件解決ノ意思
交渉ヲ再開スルコトヲ適當
シ且訓令セリ

(イ) 交渉再開方針ノ決

一、交渉再開ノ時

兄ルハ南京政府ハ本件交渉
ニ對シテハ既ニ非公法ニ
ニ關スル帝國政府ノ要請
次第ニ有リタルヲ以テ領土
萬ニ及テモ成ルヘキカニ
十二日方ノ如ク方針ヲ決定

交渉再開ノ時期ハ支那側ヨリ何等我方ニ渡リヲ付クルカ如キコトヲ
ラハ其ノ機ニ乘スルコト。若シ斯ルコト無シトセハ南京政府ノ政府
ノ相洛着キタル時ヲ見計ヒ最近ノ機會ニ於テ話ヲ持チ出スコトトス
二、解決基礎案作成

本件解決案ノ内容ニ付テハ我方トシテハ當初ヨリノ要求事項タル

a) 責任者及關與者ノ嚴重ナル處罰 (b) 國民政府ノ謝罪 (c)

來ニ對スル保障並 (d) 人的傷害及物的損害ニ對スル完全ナル賠償

ノ四點ニ重キヲ置クコトトス

右ノ趣旨ヲ達スルニ於テハ又句ノ如キハ問フ處ニ非サルモ本件交渉開
始ノ上ハ勢ヒ客年七月我ニ提示シタル南京政府側ノ解決案 (附屬書第
一號) カ交渉ノ出發點トナルヘキヲ以テ該案中迷路ヲ設ケタル點ニ變
ハルル即アル點ハ適當ナル修正ヲ爲サシメ又現行條約ノ廢棄及新條約
ノ即時締結ヲ要求シアル點ハ全然別個ノ問題ナルヲ以テ本件ト關聯シ

テ之ヲ議スルコトハ斷然拒絕スルコトトシ本件解決基礎案（附屬書第二號）ヲ作成セリ

（ロ）交渉再開ノ訓令

以上ノ方針決定セラレタルヲ以テ各年十二月十六日矢田總領事ニ對シ
前記解決基礎案（附屬書第二號）ニ基キ速カニ非公式交渉再開ノ運
シ度ク交渉開始ノ時機ハ昭和三年一月南京ニ開カルヘキ第四次中央
本會議終了シ新シキ基礎ニ於ケル南京政府成立ノ際ヲ適當ナリト爲
セラルルモ此ノ點ニ關シテハ同總領事ノ意見ヲ回電スヘキ旨訓令シタ
ル處同總領事ヨリハ右全体會議終了後ニ於テ開始スルコト然ルヘキ旨
回電アリタリ

（二）交渉開始

一、矢田總領事ト黃郛トノ會談

本年二月廿一日黃郛南京政府外交部長ニ就任スルヤ二月廿三日在

上海矢田總領事ニ對シ南京事件解決ノ希望ヲ申出ツル處アリ
ニ付同總領事ハ日本政府ヲ本件至急解決ヲ希望シ居リ既ニ其
旨ニ接シ居レリトテ則記我方解決基礎案（附屬書第二號）ノ
要ヲ説明シタル上此ノ際各軍閥トモ充分相談シ此ノ邊迄ナラベ
意ヲ以テ實行シ得ベシトノ決心ヲ固メ具ノ上ニテ再交渉ヲ開始
急速解決ヲ計ラレ度シト述べ茲ニ交渉ハ再開セラルルコトナリ

二、矢田總領事ト袁良トノ會談

其ノ後黃郛ハ南京ニ赴キ相當打合ヲ了シタルモノ如ク三月五日
袁良ヲ矢田總領事私邸ニ遣シ本件解決草案（附屬書第三號及第四
號）ヲ提出セシメタリ要領左ノ如シ

イ、謝罪ハ國民政府外交部長公文（附屬書第四號）中ニ於テ遺憾
ノ意ヲ表スル形式トスルコト

ロ、處罰及將來ノ保障ニ付テハ事件ニ參加シタル軍隊ハ既ニ懲罰シ
事件關係者ハ既ニ法ニ依リ懲辦シタル旨並ニ國民政府ハ軍民長官
ニ通令シテ在留日本人ノ生命財産ヲ切實保護シ居リ殊ニ現ニ共產
黨ヲ驅逐シタルニ依リ南京事件類似ノ事件再發ノ憂無キ旨ヲ右公
文（附屬書第四號）中ニ記載スルコト

ハ、南京領事館ノ受ケタル一切ノ損害ハ直ニ賠償シ在留日本人ノ生
命財産上受ケタル損害ニ付テハ兩國ノ友誼ヲ維持スル爲斷難且必
要ナル範圍内ノモノハ充分賠償スルコト之カ爲日支調査委員會ヲ
組織シ損害ヲ實地調査シ賠償額ヲ査定スルコト

ニ、右公文中ニ於テ不平等條約改訂ニ關スル希望ヲ表明スルコト
而シテ哀良ハ該草案ニ對スル同總領事ノ批評ヲ求メタル後我要求條
件中程潛ノ處罰ハ國民政府ノ凡解ヲ導ク慾アリテ到底不可能ナリト
テ樓々具ノ理由ヲ説明シ右シ日本政府ニ於テ處罰者ノ氏名ヲ要求ス

ルトキハ黃部長ハ南京政府ガ自發的ニ南京事件關係者ノ逮捕
命令ヲ發シ既ニ銃枝以下夫々處罰シタル氏名ト未ダ逃亡シテ捕
ルヲ待サル林祖涵等ノ氏名ヲ拘ケ後者ニ對シテハ再ヒ徹底的搜查ヲ
命スヘシトノ案ヲモ考慮シ居レリ此ノ場合ニハ處罰並ニ保障ノ字句
ヲ訂正シテ此ノ命令ヲ引用スルコトト致度キ旨ヲ述ベタリ

(三) 交渉促進ニ關スル矢出總領事及芳澤公使ノ意見

本件交渉促進方ニ關シ矢出總領事及芳澤公使ヨリ夫々左記要領ノ意見
ヲ具申シ來レリ

一、矢出總領事ノ意見

南京事件突發後當ニ一ケ年ニ垂ントシ未ダ何等ノ曙光ヲ見ルヲ待
ルハ列國側ニ於テ支那當局ノ内情ヨリ見テ平和的手段ノ交渉ニテハ
到底貫徹不可能ナル要求條件ヲ固守シ居ルコト一大原因ナリ蔣一
方ヨリ更ニ健康ナル對外方針ヲ持スル勢力ノ實現ハ望ミ難ク蔣等ガ赤

露トノ絶交ヲ斷行シ著々共產黨ノ檢舉ヲ勵行シフツアル一事ハ
來南京事件類似ノ排外暴行ノ突發ニ對スル或ル意味ノ保障ナリトモ
謂ヒ侍ベシ若シ我ニ於テ南京事件ヲ共產黨ニヨリテ計畫サレタル
陰謀ナリト認ムルナラバ我要求條件中ニモ相當緩和ヲ加ヘ以テ本
件ノ至急解決ニ資シ不快ナル印象ヲ一掃シテ人心ヲ一新スルコト
大局上優レル政策ナルベシ云々

二、芳澤公使ノ意見

最近英國ト南京政府トノ交渉ハ大体纏リ居ル模様ニキ見受ケラル
處英國側カ卒先シテ南京當局ニ取極ヲ爲ストキハ我方トシテハ夫
レ以上ノ解件條件ヲ得ルコト不可能ナルノミナラス南京側ニ對スル
我方ノ立場モ甚タ急拙クナルヘキニ付テハ此ノ際至急本件解決ヲ
考慮スルコト必要ナルベク我方ニ於テ至難ノ條件ニ拘泥スルコトキ
ハ事實解決ノ目的ヲ達スルコト能ハサルノミナラス我方ノミナリ

取残サルル慮無キニ非サルニ付テハ則記矢田總領事ノ意見ニ從
件ニ相富ノ緩和ヲ加ヘ遲滯無ク解決方相成様致度シト思考ス云々

(四) 政府ノ解決方針訓令

我方ニ於テハ三月五日哀良ヨリ矢田總領事ニ提示セル草案ニ付テ慎重
以究シタル處同提案ハ我方要求ト尙可成リノ懸隔アリタルヲ我方トシ
テハ條件ニ相富ノ緩和ヲ加ヘ現在ノ用兵政府ヲシテ此ノ際本件ヲ遲延
無ク解決セシムルコト大局上待束ナリト認メタルニ依リ大体支那側
案ヲ認メ急速解決ヲ計ルコトトシ三月十四日矢田總領事ニ對シ左ノ方
針ヲ以テ解決交渉方針訓令セリ

一、哀良ヨリ提出ノ書翰案(附屬書第三號)ハ格別其ノ要ヲ認メサル
ヲ我方ニ於テ是非發送シ度シトノコトナラハ之レヲ受領スルニ敢テ
異議無シ

二、哀良ヨリ提出ノ條件案(附屬書第四號)ハ左ノ趣旨ニ依リ適宜之
ヲ改ムルコト

イ、陳謝ノ點ハ大体差寛無キヲ文書ノ外ニ相當ノ形式ヲ以テ誠意ヲ表
セシムルコト

ロ、將來ノ保障ニ付テハ如何ナル形式ニ於テモ新ニ通令ヲ發スルコト
ヲ認メ居ラサル處此ノ點ハ各年ノ伍朝慥案ニ比スルモ甚々不満足
シテ今尙共座黨ノ變動極ヘサル現狀ニ觀ミ或ル種ノ禁令ヲ發スル
要ハ依然存在スルモノト云ハサルヘカラサルニ付此ノ點ハ右伍朝
案ハ附屬書第一號ノ程度ニ改メシムルコト

ハ、處罰ノ點ハ支那側ノ取手困難トスル處ナルヘキニ付枉ケテ讓歩
國民政府ニ於テ具ノ調査ノ結果事件ノ責任者又ハ連類者ト認ムル
ノ氏名及之ニ對スル信直ヲ本書附ノ附屬トシテ通知セシムルコトヲ
以テ我慢シ程潛處罰ノコトハ此ノ際用京政府ニ對シテハ強テ主張セ
ス敢テ休祖涵等ノ徹底的搜索ヲ命スルコトハ必要ナルニ付其ノ旨ヲ
本書翰中ニ明ニスルコト

二、損害賠償ノ點ハ大体異議無キモ後ニ至リ「兩國ノ友誼ヲ維持スル爲メ」且必要ナル範圍内」云々ノ文句ヲ横ニ賠償ノ範圍ニ付云爲スルコト無カラシムル爲右文句ハ之ヲ削除セシムルコト、尙中日調査委員曾ナルモノハ單ニ賠償額ノ査定ヲ爲スモノニシテ且支兩委員ヲ以テ組織スルモノト了解スルニ付此意味ヲ明ニセシムルコト
ホ、不平等條約改訂問題ハ南京事件ト全然別個ノ問題ナルニ付此ノ點ハ是非共削除セシムルコト

(五) 交渉經緯

一、逮捕處罰令案及外人保護令案ノ我方ニ對スル内示
三月十四日袁良矢田總領事ヲ來訪シ日本政府ヨリ訓令接到ノ有無ヲ尋
不タル後禁止令案及處罰令案（附屬書第五號及第六號）ヲ提示シ石ハ
既ニ英米側ノ内諾ヲ得居ルニ付南京政府ハ交渉ノ如何ヲ俟タス至急日
發的ニ發表スルコトトナレル旨ヲ述ヘタリ依ツテ矢田總領事ハ日本政府

府ヨリ未タ意思表示無キニ拘ラス我方要求條件二、三ト全然内
ウスル處屬保障ノ二項ニ付勝手ニ發表スルモ何等我方ハ拘束ヲ受
處無キモ唯支那側ニ於テ右様ノ措置ヲトルコトハ彼我交渉上面自
サルニ付兎ニ角日本政府ノ同意アル迄發表ヲ差控フヘキ旨黃外
方依頼シタル處之ヲ承諾シ明十五日夕刻再ヒ本省ヨリ返事ノ有
聞キニ參上スヘシトテ引取りタリ

二、我方意見ノ通達

三月十五日袁良矢出總領事ヲ來訪シタルニ付同總領事ハ訓令接到
ヲ告ケ則記我訓令ノ趣旨ニ基キ陳謝ノ件ニ關シ文書以外ニ黃外交
同總領事ヲ來訪陳謝ノ意ヲ表スヘキ旨其ノ他各項ニ亘リ要求折衝
々議論計上下シタル後袁良トノ間ニ左ノ通り折合ヒタリ
イ、陳謝ノ點ニ付矢出總領事ヨリ黃外ノ出頭陳謝ハ兩京政府ニ表
行ヲ困難トスル理出ヲ電報シ日本政府ノ再考ヲ仰クコト

三、

東郷ノ回答

ロ、其ノ代リ哀良ニ於テ保證、處罰ノ二點ハ我方提案通り修正スルコト。『兩國ノ友誼』云々ノ文句ハ無條件ニテ削除スルコト。不平等條約改訂云々ノ文句ハ『不平等』ナル文句ヲ削リ日本政府ノ迷惑成ラサル程度ニ修正シ十六日午后迄ニ矢出總領事ニ提示スルコト

三月十六日午後二時哀良矢出總領事ヲ來訪シ前記折合ノ案ニ對スルニ趣旨ノ東郷ノ返電ヲ提示セリ

イ、國民政府外交部長ノ名ニ於テ深甚ナル陳謝ノ意ヲ表示シタル上ニ日本領事ヲ往訪陳謝スルハ二重ニ陳謝スルモノニシテ日本政府ノ理出ヲ辨シ難シ

ロ、公文ノ附屬ニ處罰令ヲ附スル件休祖涵ノ援査命令ヲ公文中ニ記載スル件ハ『何月何日發布ノ何々ノ命令』ト公文中ニ引用スルコト右兩命令ノ發表ハ公文ト同時ニスルコト更ニ黃ハ假令一兩日中ニ英

領事ニ於テ本國政府ノ承認ヲ得ルキ日支間ノ交渉繼マル迄ハ英支間

公文發表ヲ見合スコトトス

ハ、賠償ノ件ハ「兩國ノ友誼」云々ノ一句削除ハ其存無キキ其代リ「

除法ノ原則ニ依リ」云々ノ文字ヲ加ヘタシ

ニ、不平等條約ノ件ニ付テハ「不平等」ナル文字ハ削ルヘキキ全部削

ハ對内政策上不可能ナリ

四、袁良トノ間ノ妥協案

袁良ハ副記實部ヨリノ電報ニ就キ慍々説明シタル後自ラ作成シタル修

正案ヲ提出シタルニ付矢出總領事ニ於テ之カ對案ヲ作成シ袁良ニ示シ

詰合ノ結果兩者間ニ一應左ノ妥協案成立セリ

イ、形式ハ草案（附屬書第三號及第四號）ノ原案ニヨルコト

ロ、石原案中ノ保障處罰ノ項ニ於テ「第十九師」ノ文字ヲ削除シ「

辨シタルコトキ」ノ代リニ「徵辨シ石ハ 年 月 日國民政府ノ發

布セル二個ノ明令ニ徴シ完全ニ明瞭ナルヘキコトヲトスルコト一
二個ノ明令トハ附屬第五號及第六號ノ案ヲ指スキノナリ
ハ、損害賠償ノ項中「兩國ノ友誼」云々ノ文句ヲ其ノ儘殘スガ又ハ英米
並ニ「國際公法」云々ノ文子ニ代ユルカハ日本政府ノ採擇ニ一任ス
コト

ニ、不平等條約改訂ノ一節ハ黃郛ノ示セル誠意ト其内情ヲ酌量シテ之ヲ
左記ノ條件ニテ復活セシム

α、原案中ヨリ其全文ヲ削除シ別ニ左ノ通り修正セル文章ニテ照會スル
コト

「今ヤ南京事件ハ既ニ解決セルヲ以テ本外交部長ハ貴我兩國ノ外交
關係上ニ一新紀元ヲ開クト同時ニ中外各國ノ友誼ヲ破壞スベキ運動
者ノ口實ヲ除去セムカ爲貴國政府ニ於テ速ニ法ヲ設ケテ平等及領土
主權ノ相互尊重ヲ基礎トシ現行各條約ノ改訂並ニ各種懸案ノ解決ヲ

計ラムコトヲ希望ス」

リ、ニ對シ日本總領事ヨリ外務大臣ノ對支政策聲明ヲ引用シ適當ノ
令ニ於テ隨時回答スルコト

五、政府回訓

我方ニ於テハ則記妥協案ニ對スル矢田總領事ノ請訓ニ對シ三月十七日
特ニ則記(一二)不平等條約改訂ノ點ニ付キ「不平等條約一ナル文字
削除セラレタルモ本案ハ全体トシテ南京政府承認ノ問題ヲ含ミ居
如ク南京政府側ニ於テ頑強ニ此ノ點ヲ主張スルハ南京事件解決ヲ
一種ノ承認ヲ賦予得ムトスル魂膽ナルヤノ疑アルニ付之ヲ削除スル
應強ク主張スヘキ旨回訓セリ

六、黃郛ノ矢田哀良妥協案ニ對スル修正希望

三月十七日夜黃郛人哀良ヲ矢田總領事ノ許ニ使ハシ則記矢田哀良妥協
案中(一)明令ノ日附ヲ收ルコト(二)條約改訂ノ件ハ訂正セル字句

ヲ以テ原案中ニ復活セシムルコト即分離セシメサルコトノ二點修正アリ度キ旨申出アリタル趣ヲ以テ同總領事ヨリ不平等條約ノ項ヲ全部削除セシメムトスル我方要求ニシテ到底貫徹出來サル場合政府ハ前記同總領事ト哀良トノ妥協案（前記（四））ニテ折合フ内意ナリヤ否ヤニ付請訓シ越セリ

七、政府回訓

政府ハ右矢田總領事請訓ニ到シ三月十九日南京事件ノ如キ不愉快ナル事件ヲ放ルヘク速カニ解決センコトハ政府ノ取テ希望スル所ナルヲ以テ本件自体ニツイテハ出來得ル限り讓歩シ桂潛處罰ニ付テモ強テ主張セス謝罪ノ點ヲ最大ノ讓歩ヲ爲シテ本件ノ解決ヲ促進セムトシツツハル次第ナルヲ本件ノ解決ト全然別個ノ問題タルヘキ條約改訂問題ヲ本件解決ニ關聯セシムルハ其ノ必要ナキノミナラス寧ろ有害ナルヲ以テ南京政府ガ此ノ點ヲ主張シテ其ノ他ニ於テ略ホ一致セル本件ノ解決ヲ

欲セサルニ於テハ我方ニ於テハ此ノ際本件ノ解決ヲ爲スヲ要セス
支那側ガ假令英米ガ南京政府側ノ主張ヲ讓歩シテ解決スルトモ我方
シテハ必スシテ之ニ追隨スルノ要ナキニ付右様承知アリ度ク
條約改訂ニ關スル點ヲ斷念スルニ於テハ謝罪ノ點ニ付テハ單ニ又書
紙ル謝罪ニテ満足シ賠償ノ項ニ關スル文句ハ英國等ト同シク一國際
云々ト改メシメ又明令ノ日附ハ之ヲ取り適宜公文ノ交換ヲ行ヒ差
ナキ旨回訓セリ

三、交渉頓挫

一、矢田總領事ト黃郛トノ會見

三月廿日矢田總領事ハ黃郛ニ回曾シ則記訓電ノ次第ヲ甲聞ケタル處
郛ハ補ク失望ノ色ヲ表ハシ日本政府ニ於テハ條約改正條項ノ侵入ヲ拒
否セラルル處自分ハ今度南京政府ヨリノ全權委任ノ命令中ニ右條項ノ
明文アリ自分限リニテハ如何トモ變更シ難ク之カ爲ニ且支那ノ要求

決不可能トナルコトハ如何ニモ残念ナリトテ嘆息シ平々々云々ハハハ
問題ハ實行ヲ豫想セサルモノニテ國民ニ對スル一種ノ芝居ニ過キサル
ニ日本政府力之ヲ六ヶ數ク解シ居ラルルハ不思議ナリト附言セリ

二、矢田總領事ノ意見

三月廿二日矢田總領事ハ條約改正ノ希望條項投入ノ件ニ付左ノ如キ意
見ヲ具申シ越セリ

我方ニ於テ本件投入ヲ好マサル理由ハ

イ、本問題ガ南京事件ト無關係不必要ナルコト

ロ、南京政府ノ承認ヲ覬覦^チ侍ントスル魂膽ナル疑アルコト

ハ、英國政府ニ反對意見ヲ有ストノ情報アリ英文間ニ於テ亦此ノ條項

ハ成立セサルベキコト

ニ、英支間今次ノ交渉ノ成否疑アリ我方トシテ進ンデ此ノ點ニ付議定
スル必要無カルヘキコト

ノ四點ニ歸着スル様思考セラルル處

イ、本條項ガ南京事件ト關係アリヤ否ヤハ見方ノ相違ナルベク

ロ、南京事件解決セバ同條項ノ有無ニ拘ハラズ承認問題ハ提起サルル

ナルベシ現ニ各國政府ハ南京政府ヲ事實上ノ地方權力者トシテノ

認ヲ與ヘ交渉シツツアル次第ナレバ南京政府ガ支那全体ノ代表的

一政府トシテノ承認ヲ要求スルナラバ事實ニ反スルヲ以テ之ヲ拒絶

スルニ何等考慮ヲ要セサルヘシ

ハ、英國政府ノ反對意見カ如何ナルモノナルヤハ固ヨリ不明ナルモノ

條項ハ王龍惠「ラムプソン」ノ覽書ニモ伍朝樞ノ提案等ニチアリテ

今回初メテ提議サレタル次第ニアラサルヲ以テ英國公使ハ英國政府

トノ間ニ此點ニ關シテハ既ニ昨年來何回モ意見ノ交換アルモノト推

定セサルベカラズ從ツテ今更英國政府ガ本件條項ノミヲ不同意ナリ

ト強ク主張スルモノトハ想像セラレサルナリ

二、英文交渉取近ノ經過ヲ知ルニ余外スラト取運フヤモ計リ難
ト思考セラレサルニアラス右シ英文交渉成立シ日本ノミ不調ニ終ル
場合ニハ開京政府ハ所請條件受テ其ニ日文交渉ノ經過ヲ平發表
談判不調ノ實止ヲ日本通ニ嫁シ日本政府ハ條約改正ニ關スル支那
民ノ在望ニ到シ可開ヲ有スル百代示スルコトヲ拒絕シタリト宣傳
ルナルニク此ノ條約ノミヲ以テ解決ヲ放棄スルコトハ得策ナラサル
ヤニ思考セラルル

三、袁氏ヨリ東郷ノ條約改正條約ニ關スル希望申出
大田禮順事ハ三月二十日東京トノ習知ニ於テ彼方取後ノ態度ヲ明ニシ
タルカ同月二十四日袁氏ハ大田禮順事ヲ來訪シ東郷ノ條約ノ傳言トシテ條約
ニ關スル條項ニ關シ文印ニテ詳述シ別ニ公文ヲ交換スルコトトシ
度キ東郷ノ希望ヲ今一書ニ付二電票方懇請スル所アリタル趣ニテ
同禮順事ヨリ政府ノ意思ヲ明ニシ來レリ

四、政府ノ同調

行ニ對シ政府ハ三月二十六日不平等條約問題ニ對スル帝國政府ノ同情
的態度ハ今後ト干候曾アル毎ニ繰返シ之ヲ表明スルニ躊躇セスト雖元
來南京事件ハ革命軍ノ犯シタル國際的罪惡ナルコト否定シ難キ處ナル
ガ故ニ之ガ解決ニ當リ恰ニ交換條件ノ如キ形ニテ條約改訂問題ヲ提起
スルコトハ本件解決ニ對スル支那側ノ誠意ヲ疑ハシムル所以ナリ從ツ
テ條約改訂問題ニ關スル公文ノ交換ハ假令之ヲ南京事件ノ公文ト切離
スモ此際之ヲ行フコトハ我方ノ到底承認シ得サル處ナリ帝國政府ニ於
テハ南京政府及**東部**ニ對シ充分ノ同情ヲ有シ其ノ健全ナル發達ヲ衷心
ヨリ希望シ居ルガ故ニ本件ノ如キ不愉快ナル懸案ハ出來得ル限リノ讓
歩ヲ爲シ以テ迅速解決ヲ計リツツアル次第ニテ右急速解決ハ南京政府
ノ信用ヲ増シ基礎ヲ鞏固ナラシムル上ヨリ千極メテ必要ナルコトト信
スルニ付南京政府ニ於テ其ノ非ヲ非トスル淡泊ナル態度ヲ以テ單純ニ

南京事件ノミヲ解決スルノ態度ニ出テムコトヲ切望スル旨篤トテ
ニ時ヘ具熟慮ヲ求ムベキ旨矢出總領事ニ訓令セリ

五、條約改訂條項ニ關スル矢出總領事ト袁良トノ會談

依ツテ矢出總領事ニ於テハ二月廿七日袁良來訪ノ節前記政府ノ訓令ニ
基キ條約改訂問題ニ關スル公文ノ交換ハ命令之レヲ南京事件ノ公文
切離スモ此ノ際之レヲ行フコトハ我方ノ到底承認シ得サル處ナル旨ヲ
述ヘタル處袁良ハ然ラハ條約改正ニ關スル旨文ノ日附ヲ南京事件
決公文ヨリ遅ラシ「今回南京事件解決シタルニ付云々」ノ文句ヲ無
シテモ不可ナリヤト述ブル所アリ同總領事ハ之ヲ拒絕セリ

六、袁良ヨリ在南京岡本領事ニ到スル申出

四月七日袁良ハ在南京岡本領事ヲ來訪ノ節條約問題ヲ全然別個ニ
ヒ日本側ニ於テ甲乙「吾等二月間内閣ノ聲明及現内閣其ノ後ノ聲明
今尚要ルコト無シ」ト云フ程度ノ聲明ヲ爲シ之カ發表モ事件解決

ノ翌日トナス可ナルニ付何トカ此機會ニ御考慮ヲ願ヒ度キ旨申出シ
所アリタリ

七、哀良ヨリ矢田總領事ニ對スル申出

四月十一日哀良矢田總領事ヲ來訪シ在京 穀汝耕ヨリ五日出淵次官トノ會
見ノ結果日本政府ハ條約問題ヲ全然別個ノモノニ切離セハ差支無シトノ
意嚮ナリトノコトナルニ付南京政府ハ敢俊ノ讓歩トシテ條約ニ關スル公
文ハ日附ヲ遅ラスノミナラス發表ノ日取りモ遅ラシ別々ニナスコトニ決
シタルヲ以テ今一度日本政府ニ電報有リ度キ旨申出デタルノ趣同總領事
ヨリ電報アリタリ

八、政府ノ回訓

右ニ對シ四月十三日政府ハ次官カ條約問題ヲ切離サハ差支ナシト述ヘタ
ルハ此ノ際本問題ニハ全然觸レス之ヲ他日ノ問題トスルニ於テハ南京事
件ノ解決ニ同意シ侍ヘシトノ趣旨ニシテ公文ノ日附及發表ヲ遅ラスカ如

キ姑息ノ方法ニテハ到底承認シ難キニ付右然ルヘク支那側ニ同意スヘキ旨矢出秘領事ニ電訓セリ

九、交渉停頓ノ現状

要之則記各項ニ於テ説述セル如ク支那側ニ於テハ前顧公文案（附屬書第三號及第四號）ニ多少ノ修正ヲ加ヘ處罰及保障ニ付テハ南京政府ヨリ自發的ニ外人保護令（附屬書第五號）及林祖涵ノ建議處罰令（附屬書第六號）ヲ發シ之ヲ右公文案中ニ引用スルコトトシ其ノ他ノ諸點モ大體我方ノ同意シ得ル程度ニ適合ヒタルカ只不平等條約ノ點ニ付テハ支那側ハ内政上人心一新ノ政治的意義ヲ附シ居ル次第ナレハ文句ハ出來得ル限リ限リ緩和スヘキモ本項全部ノ削除ハ對内關係上不可能ナリトテ之カ削除ヲ承認セス我方ニ於テハ南京事件目體ノ解決ニ付テハ出來得ル限リ讓歩ヲ爲スニ吝ナラサルモ本項ノ如キ南京事件トハ何等ノ關係無キ間題ヲ本件解決ニ結付ケムトスルハ頗ル當ヲ得サルヲモナラズ南京

政府承認問題ニキ關係アルヤニ疑ハレタルニ付支那側方石ノ點ヲ西ニシテ其ノ他ノ點ニ於テ略一致セル本件ノ解決ヲ欲セサルニ於テハ政府中央本力支那側ノ主張ニ讓歩シテ解決ヲ爲ストモ我方トシテハ解決ヲ爲スヲ安セストノ建前ニテ矢出總領事ヲシテ交渉セシメタルヲ遂ニ實現ノ讓歩ヲ見ス此ノ間二月二十日米支間ニ本件交渉成立スルアリ他三月三十一日將介石北上シテ北伐軍事開始セラレ内外ノ注意之ヲ集セララルルニ至リ苟々本件交渉ハ遂ニ其ノ儘停頓ノ狀態ト成リテ今日及ヘリ

同則總領事政府ノ外人保護令及逮捕處罰令ハ交渉成立ヲ俟タズ三月六日南京政府ヨリ自發的ニ發布セラレタリ

(附)

逮捕處罰令及外人保護令發布願末
逮捕處罰令及外人保護令ノ發布ハ公文發表ト同時ナルヘ旨矣

事ヨリ哀良ニ對シ念ヲ押シ哀千之ヲ黃郛ニ收次キ右命令ノ發表ハ英支
國間ノ交渉權ルトモ我方交渉成立迄發表ヲ見合ス旨三月十六日哀良自
矢出總領事ニ言明シタル處ナルニ同月十七日朝ノ支那新聞ハ南京十六日
發電トシテ則記二命令ヲ發表セリ依ツテ矢出總領事ハ直チニ館員ヲ哀良
ノ計ニ道ハシ之カ發表埋出ヲ質サシメタル處哀ハ黃郛カ南京事件交渉ノ
經緯ヲ三月十四日ノ中央政治會議ニ報告シタル處何香凝一派ノ斷然不
論猛烈ナリシヲ押切り將介石、譚延闓、祭元及黃郛ノ四名ヲ起草委員ニ
ゲ全責任ヲ負ハシムル事トナリテ漸ク通過シ中央執行委員會ニ回報シタ
リ然ルニ十五日委員會ニ於テ何香凝等又々反對セルモ將介石ニ於テ抑ヘ
付ケ十六日ノ國民政府委員會議ニ附議セシムルコトトナレルカ同委員會
議ニ於テ干右仁等ヨリ之カ修正ヲ提議シタルヲ以テ首席譚延闓ハ形勢ノ
不慮ナルヲ認メ現ニ政治會議ニ於テ四名ノ責任起草委員ヲ擧ケタリトシ
理由ヲ以テ他ノ委員ニ之カ修正權無シトノ前例ヲ破リタル斷言ヲ下シテ

發言ヲ禁シ一瀉千里ニ議決發表セルモノナリ即チ右禁令ノ發表ニヨリ國民政府ヲ拘束シ交渉速行ヲ余儀無クセシメタルモノニシテ黃郛ノ命ニテ之ヨリ説明ノ爲參上セントセシ處ナリ云々ト辯解セリ

附屬書第一號

南京政府伍外交部長ノ提出セル南京事件解決基礎案

（昭和二年七月十二日敦交渉員ヨリ任上海清水總領事代理ニ手交）

第一、支那共和國々民政府ハ南京事件カ南京ニ於ケル國民政府成立前共和主義者ニ依リ煽動セラレタルモノナル事實ニ拘ハラズ本事件ノ調査ヲ爲シ然ル後本事件ニ關シ一面的ニ承認セラレタル國際法ノ規則ニ從ヒ責任ヲ負フヘシ

第二、國民政府ハ本事件連續者ニ對シ既ニ取ラレタル措置ニ關スル詳細

ナルステートメントヲ日本政府ニ交附スルモノトス（本ステートメントハ非公式ニ日本政府ニ通知シ其ノ承認ヲ經ヘキモノトス）

第三、外交部ハ公文ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表明シ且國民政府ハ政府吏員ノ日本、人生命財産ニ對スル認ユル形式ノ暴行及煽動ヲ禁止スル爲明確ナル約束ヲ爲スヘシハ則記宣言履行ノ爲發セラルヘキ禁止令ノ爲ハ隊メ非公式ニ日本政府ニ通知シ其ノ承認ヲ經ヘキモノトス

第四、國民政府ニ於テ國際法ノ一般的規則ニ從ヒ責任ヲ負ヒタル上ハ關係支那人ニ依リ日本人ノ生命及財産ニ對シ爲サレタル現實ノ損害ヲ審査シ且各場合ニ付支拂ハルヘキ賠償額ヲ評價スル爲日支共同委員會組織セラルヘシ

第五、國民政府ハ現存條約ノ廢棄及平等並視土主權相互尊重ヲ基礎トセシ新條約ノ即時締結ヲ要求ス

附屬書第二號

我方用京事件解決基礎案

(昭和二年十二月中旬矢田總領事宛訓令セルモノ)

- 一、文部共和國民政府ハ南京事件カ國民革命軍所屬軍隊ノ所爲ナル
依リ本事件ニ對シ完全ナル責任ヲ承認シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スヘシ
- 二、國民政府ハ本件ニ付責ニ任スヘキ軍隊ノ指揮官及之レニ關與セラル
ヲ嚴重處罰シ其ノ指圖ヲ詳細ニ記載シタル書面ヲ日本政府ニ交付ス
シハ本書面ハ豫メ非公式ニ之ヲ日本政府ニ通報シ其ノ承認ヲ經ヘキ
ノトス)
- 三、國民政府ハ政府吏員及其ノ他ノ支那國民ノ日本人身體財産ニ對ス
總ユル暴行及煽動ニ對シ嚴重ナル制裁ヲ設ケテ之ヲ禁止スルコトニ付
明確ナル約束ヲ爲スヘシ(右宣言履行ノ爲設セララルヘキ禁止令ハ豫メ
非公式ニ其ノ爲ヲ日本政府ニ送付シ其ノ承認ヲ經ヘキモノトス)
- 四、國民政府ハ本事件ニ於テ支那人ニ依リ日本人ノ身體及財産ニ對シ爲
サレタル一切ノ傷害及損害ヲ完全ニ賠償スヘシ

附屬書第三號

昭和二年二月五日、長良ヨリ矢田總領事ニ提示セル書翰、第一
東京、計ニ兩シ、客年四月十一日、漢口總領事ヨリ陳前外交部長宛書翰中
ニ、國民軍節軍力、日本居留民ヲ侵害シ、造成シタル局面、迅速解決ノ爲ト
アリ、又共同宣言中ニハ之等安永ハ決シテ中國々民ノ主權又ハ威信ヲ毀
損スルモノニ非スシテ、中國國民ニ對スル友誼ノ爲ナルハ、關係國政府ノ
唯諾スル處ニシテ、同時ニ和衷共同ノ腔誼ヲ持續シ、且ツ尊嚴ヲ増サムコ
トヲハ、關係國政府ノ切望スル處ナリ之等ノ條件ハ、中國一種ノ勢力ニ對
シテ、爲スモノニシテ、此ノ理ノ勞力ノ消耗ハ、中外ノ友好的關係ヲ破壞シ、且ツ友邦
モノナリ、蓋シ此ノ理ノ勞力ノ消耗ハ、中外ノ友好的關係ヲ破壞シ、且ツ友邦
國國民ニ對スル支那國民ノ不信増悪及暴行ヲ煽動セムトスルモノナレ
ハ、云々トアル處、當時所収ノ如キ一理ノ勞力、支那ニ存在セシハ、事實ニシ
テ、此理ノ勞力、コソ本來ニ對スル至真、比ヲ負フヘキモノナリ、而シテ貴國及

關係國政府ハ右勢力ノ存在ト活動ニ鑑ミ、事前防後ノ爲列國一致シテ右
求ヲ提出セラレタルモノナルヘク此ノ間ノ苦衷ハ國民政府ノ深ク諒ス
ル所ナリ

國民政府ハ則記ノ勢力ニ對シテハ夙ニ剷滅ヲ期セシモノ本事件發生ノ當時
ハ政府ハ木々南泉ニ延邵セス、變起ルニ及ビ勿卒トシテ鎮壓セシ始末ニ
シテ其ノ後政府ハ斷然タル手段ヲトリ、遂ニ此ノ僅勢力ヲ根本的ニ掃除
之ニ關係セル人物モ亦驅逐シタリ

國民政府ノ此行動ハ實ニ中外固有ノ睦誼ヲ増進シタルノミナラス政府ノ本
質ニ對スル態度ヲ表明シタルモノナルコトハ國民政府ノ自信スル處ナリ
國民政府ハ此新形勢ノ下ニ於テ則記ノ勢力ハ既ニ存在セス且死灰再燃ノ
餘地無シト深信スルカ故ニ貴國政府ノ本事件ニ對スル觀測又形勢ノ改
善ニ底リ好意ト互議ノ精神ニ基キ根本上ノ變化ヲ望ムコトヲ切望スル
其ニ貴國力援ニ提出セシ要求ハ決シテ中國國民ノ主權又ハ威信ヲ毀損ス

ントスルヲ本意ニ非サルコトヲ確證セラレ度シ
茲ニ本部長ハ陳前部長ノ回谷ヲ斟酌シ誠懇ノ精神ヲ以テ貴下ト交渉開
ノ準備ヲ爲シ本条ヲ迅速ニ解決シテ兩國國民固有ノ睦誼ヲ厚マセン
附屬書第四號

昭和二年三月五日哀良ヨリ矢田總領事ニ送ル書翰案ノ二
本部長ハ國民政府名義ヲ以テ本事件ハ調査ノ結果共產黨カ國民政府ヲ
建部則ニ煽動シテ發生シタルモノナル實證ヲ得タルキ貴國領事館及在
民ノ生命財産上ニ損害ヲ與ヘタル事實ニ鑑ミ敢テ誠懇ナル態度ヲ以テ
國民政府ニ向テ遺憾ノ意ヲ表ハス國民政府ハ任支日本人ノ生命財産ニ對シ
テハ本來ノ政策ニ基キ軍民長官連令シテ引續キ切實保護シ居レルカ殊ニ
現ニ共產黨ヲ驅逐シタルヲ以テ中外ノ友誼ヲ破壞シ支那國民ノ友邦國民
ニ對スル不信任及ヒ嫌惡ヲ意味スル暴行ヲ煽動スルカ如キ勢力ハ既ニ消
滅シ今後政府カ外人ヲ保護スルコトハ必然ニシテ更ニ容易ナリ

從ツテ南米事件ニ類似ノ事件出爰ノ愛ヒ無キハ本政ノ自信シ侍ル事
事件當時其座敷ノ補助ヲ父ケ奉行ニ參加シタル第十九師ノ軍隊ハ既ニ
府ヨリ食師ノ上解散ヒシメ共ノ他本件ニ關係アル人員ニ對シテハ政府
リ清黨期限内ニ大々法ニ依リ懲辦シタルモノナルコトヲ本部長ヨリ茲ニ
附帶通知シ侍ル次第ナリ
國民政府ハ前國在東京領事館ノ父ケタル一切ノ損失ニ對シテハ直ニ賠償
スルノ用意アリ仕留日本人ノ生命財産上受ケタル損失ニ對シテハ應
友誼ヲ維持スル爲訓理且必要ナル範圍内ノモノハ充分賠償スヘシ
調査委員曾ヲ組織シ關係アル文部人力問ヨリ與ヘラレタル損失ヲ
シ毎件ノ賠償數額ヲ査定シ爰シ
以上各節ニ付テハ貴方ノ諒解同意ヲ明フコトトシ本事件ヲ迅速簡便
決センコトヲ希望ス終リニ本部長ノ言ハサルヲ侍サルコトアリ
ハ一方在支日本人及其ノ他ノ外人ノ生命財産ノ安寧ニ對シ充分

興フルト共ニ地方民族主我ノ支那ト列國間ノ慍々ナル困難ノ原因カ不
等條約ニ存スルカ故ニ本件ノ解決後貴國トノ外交上ニ一新紀元ヲ開キ
寺亞ニ領土主權尊重ノ原則ニ基キテ前記條約ヲ改訂シ且ツ其ノ他ノ懸
ヲ解決シ日本人民ヲシテ支那人民ノ止苗ナル願望ニ對スル同情ヲ表現
ルヲ待シメンコトヲ希望ス

外人保護令（昭和三年三月十六日）

査スルニ外人主命財產ノ保護ハ國家ノ盡スヘキ職責ニシテ國民政府ハ不
留外國人ノ保護ニ付テハ既ニ屢々通令シ直キタルカ唯秩序定マルモノニ
不良分子カ同潜伏シ何等煽動スル事採シ難キヲ以テ各省軍民長官ハ所屬
機關ヲ督勵シテ秘密ニ之ヲ査察シ右シ封内對外ノ越規行動等アルモノハ
切實ニ制止シ以テ中外人民ヲシテ安堵樂業ヲ得セシムルコト切望ニ堪ヘ
ス茲ニ符ニ付ス

林祖湘等處罰令（昭和二年二月十六日）

宣スルニ今年ノ南京事件ハ國民革命軍力將ニ敵軍ノ餘黨ヲ肅正セシメ
秩序混亂ノ際ニ於テ共產黨ノ煽動アリテ軍隊及地方ノ流民ノ所爲ニ係リ
大膽ニ干反邦ノ駐華合衆事照及城内外ノ居留民住宅ヲ強掠シ甚タシキ
ハ明事照職員及外國居留民ヲ反協セル事實アリタルハ殊ニ痛恨ニ堪ヘ
次テ高級幹部ニ於テ逮捕ニ按シ立所ニ種々派兵シテ彈壓シ直チニ事
遂メタル兵員係長等、張發貴、王正發、馬相止、黃其昌等十九名及
僱、楊勝生、趙次炎、張愛林、陳名秀等二十二名ヲ其ノ場ニ於テ銃殺シ
シタル外休恤團一軍隊政治部主任一名ハ該案ノ首班ナルニ付既ニ
月日政府ニ於テ逮捕令ヲ發シタル處今日ニ至ル迄未タ捕縛スルニ至ラ
ス軍民長官ハ所望ニ付シ一律ニ赦免ニ便宜ノ上逮捕シ其ノ餘ノ逃亡犯人
又之ヲ查明逮捕シ法ニ依リテ懲辦シ以テ亂源ヲ遏ムヘシ茲ニ令ス

昭和二十五年十月
遣族より提供を受

南華
解者
一
大那
西
以
以

英國側交渉

昭和3

上海
本省

三月十一日在着

田中外務大臣

矢田總領了

第一二九号

英國公使、去ル五日以來当地ニ滞在申上ル地、六日夜英國

總領了ノ宴會ニ於テ同總領了、公使米國總領了、

郭泰祺トノ間ニ要談ヲナシタル模様ナリ、力後ニテ

米國總領了カ本官ニ對シ日英兩國ニ南京事件ノ關係

ル申出アリトノ事ナルカ、自方ニハ未タ何ノ話モナシト

語リタルノミ、ニテ英國公使ヨリハ本官ニ對シ何等ノ話

無カリレヲ以テ、本官ハ七日同公使ヲ訪問シタルニ是非

MARUZEN II

P.V.M. 27

913

公本記録

昭和二十五年十月
遺族より提供を蒙

共貴下ト懇談シ夜中儀アリ迄テ秘書官ヲレテ面会時
由ヲ申上ケヘレト言ヘルノミニテ来夕面会ノ機無キ処今
日黄郛ニ面会ノ際英支両ノ南京事件交渉ノ様ヲ尋
拜ネタルニ本件ハ英國公使ト固キ約束アリテ相談
力或程迄進ム迄ハ對秘密ヲ守ル事ニナリ居ル
故其ノ續エテ報告モ差控ヘラレタレト前記キシテ大要
次ノ如ク語レリ。

英國ノ条件ハ大要日本政府ノ要求条件ト同様ニシテ
唯異ナル點ハ英國軍艦ノ砲撃事件ニ關スル条件
ノミナリ自今ハ英國公使ニ對シ犯人ノ嚴罰並ニ其

人名表、及付及排外行動禁止令ノ發布等ハ全然団
 匪事件ノ条件ト同様ニシテ唯異ナル點ハ彼ニ於テ
 上諭トアルヲ訓令トナシ居ルタケナリ此ノ人心ノ變化
 ヒル時代ニ於テ何人カ局ニ當ルモ斯ル条件ヲ其儘取
 諾スル勇氣ヲ有スルモノ無カルヘント述ベ今朝ニ兵
 時ガ論議ニタシ結果大體ニ於テ英國公使ハ我主張
 ヲ容レタルヲ以テ曰下等點ハ賠償問題ニ在リテ英
 國側ハ支拂ノ方法ヲ明示セヨト迫リタルモ自今ハ賠償
 要求ノ總額ニ對スル大體ノ見當付カサレハ一時ニ支拂
 一力或ハ年賦支拂ノ方法ニ依ルハ中力等ノ點ハ破産

之種之ト答、押内答中ナリ自方ハ
一、各領事館ノ復舊二、直接身体上ノ被害者ノ賠償
三、財産上ノ損害ノ三般之方々逐次実行改メシト主張
シタルニ英國側ハ之ニハ異議無キ模様ナリ要スルニ英國
公使ハ既ニ福州ニ於テ支那官憲アレテ英國ノ對南方
方針ハ緩和シ南京事件ノ如キモ出来ルタケ互譲ニ
至急解決方ヲ計成キ希望ナリトノ旨ヲ南京政府ニ
打電セシタル程ニテ当地ニ於テモ既ニ北京ヲ出テヨリ
日方モ多少輕々タルヲ以テ急キ降任スル必要アリ
トテ解決ヲ急焦リ居ルニ付案外早ク纏ムヤモ圖ラ

レス又米國三対レテハ津備遅レタレトモ何~~モ~~第三師長
ヲレテ対案ヲ提出セシメタリ云云

英日側交

昭和3

上海本

三月十三日前着

田中外務大臣

矢田總領事

第一三三号

十一日午前佛總領事代理「メリエ」日曜日ニ拘ラス至

急相談シ至キエトアリトノ事ニ付面会シタルニ「メリエ」昨

日南京事件ニ関スル公文一紙電才一一二号ヲ受領

シタリト告ケ英國公使ヨリ何等國々所アリヤト質問

セラル付未タ無シト答ヘタルニ英國公使ハ米國總領

事ヲ呼ヒ萬事相談シ居ル様ナリト述ヘ種々相談ス

ル處有リタルカ結局「メリエ」カ同夜英國總領事ヲ往訪

★美公使

二月十日 福州着

二月十三日 同地着

之本件交渉ノ経過、模様ヲ卒直ニ廣内スルコトニ打合セ
タル処翌十二日朝英國總領アリ南京事件交渉ノ
結果説明、為米、佛、伊、南、佛總領アリト共ニ午餐ニ招
中云シト、電話アリ出席シタルニ食後英國公使ヨリ
福州ニ於テ國民政府ヨリ南京來訪方申出素リタル
ニ對シ南京事件ノ解決ヲ為シ訪問シ得ル様取計ヒ
得、往訪ス、トト回答シ、瑞緒着ヲタルニ付上海總
領アリ、電訓ニ南京政府側ト豫備交渉ヲ為ス、ト
命、之當地着以來數回黃郛ト折衝、之昨夜一段落
ヲ告ケタルヲ以テ別電ヲ一三四号、黃ハ今朝南京ニ

赴キ國民政府ノ同意ヲ求メ自今ハ本國政府ニ打電
シテ其承認ヲ求テリ尙自今ハ本國政府ニ對シ之カテ今日
南京政府ヨリ得ラレル大限ハ一モ一ナル事現政政府助
倒ルル時ハ再ヒ反動起リ更ニ惡シキ政府ノ樹立セラル
ル虞コソアレヨリ良キ政府ノ出現ハ望ミ無キ事既ニ
一ヶ年ニ亘リ何ノ爲スコトモ無ク経過シタル列國側力
今更強キ要求ヲ貫徹セシムル事不可能ナリトノ
意見ヲ進言シタリトテ本官ニ其ノ意見ヲ求メタ
ルニ付全然同感ニテ現下ノ支那ニ於テハ明日ノ事
ヲ顧慮スルハ何モセズ事ナリ今日存在シ居ル

政權ヲ相年ニ其ノ日限リ交渉スル外無シ本官ヲ南
京事件ノ解決ハ今日カ良キ時機ナリト思ヒタルニ付
其旨東京ハ電報シタルモ何等未タ回訓無クハ政
府ノ御方針ニ付テハ何トモ申上ケラレズト回答シ置ケル

英國公使
卜黃郛卜
一因二被告
ヒタハ
解決
案

昭和3

上海
本省

三月十三日前着

田中外務大臣

矢田總領了

沖一三四号

一、此罪罰二付リ、輕潜ヲ全然除外シ國民政府力

本件解決ト同時ニ自發的ニ既ニ銃殺シタル十九

名ノ生命ト首魁林以下犯人ノ嚴重搜索逮捕

方命令ヲ下ス事一大作任電ヲ一一一號末

段、黃郛、考案ト同様ナリ但シ其ノ案文ハ前

以テ英國側ノ同意ヲ要スル事ハ公使ハ右案ヲ

朗讀セリ

二、且、然、的、二、且、解、決、表、示、其、之、國、民、政、府、ヨリ、排、外、暴、
動、取、締、令、ヲ、下、ス、事、一、右、案、之、モ、英、國、公、使、朗、讀、シ、
タル、大、作、昨、年、中、六、月、三、日、附、王、寵、惠、ト、一、交、渉、案、
文、ヲ、三、項、ノ、文、同、リ、譯、和、シ、タル、モ、一、ナ、リ、
三、賠、償、ニ、付、テ、ハ、大、作、前、記、王、ニ、提、出、シ、タル、案、文、一、儘、ト、
シ、テ、其、一、方、法、ニ、付、最、初、其、那、側、ヨリ、誤、リ、錯、リ、先、ニ、
ス、ル、ト、一、治、サ、リ、シ、カ、英、國、公、使、ヨリ、個、人、ヲ、先、ニ、シ、タル、ト、
希、望、出、テ、先、ノ、賠、償、項、目、ヲ、二、種、ニ、区、別、シ、
一、ハ、個、人、ノ、身、体、上、ノ、被、害、及、財、産、上、ノ、損、害、ニ、ハ、公、
社、共、同、作、政、府、ノ、損、害、ト、シ、
二、ハ、先、ニ、ス、ル、下、

四、支拂方法ハ或ル一定額ヲ先ヅ國民政府ヨリ供託シ
各國委員會ノ査定済決ヲ其ノ比例ニテ各國ニ分配
交付スルヲ一組シ公使ハ黃ハ會議中只當座ノ思付
ナルカ國民政府トシテノ年賦支拂ノ方法ヲ探ルト
シテ金額一ヶ年百萬弗以上ノ支拂ハ不可能ナルハ
シト述ハタルカ右他日ノ交渉ヲ拘束スルヲ得サルニ
參考トナルハシト附言セリ

五、英國軍艦ノ南京砲撃ニ付テハ砲撃一「ホニバ
ー」トメシトナル文字ヲ避ケ右ハ英國居民ノ
生命財産ノ保護上已ムヲ得ナリニ措置ナリ

シモ夫力為其那人之損害ヲ与、夕九事ニ對シ英國
政府ニ於テ遺憾ノ意ヲ表スルヲ

六、最後ノ國民政府ノ希望ニ關スル矣、（強電才一）

三、若段ト同文ニ對シ英國公使ノ回答案ヲ

朗讀シタルカ其旨ハ不平苛索約ノ改訂等ハ

英國政府ノ希望スル處ナル旨ヲ力説シ、昨午以

來發表シタル二國ノ覺書ヲ引用シ極大ニ友誼

的ニ文字ニ滿テタルモノナリ、

七、右解決案ニ一致スルハ美國公使ハ南京ニ國民

政府ヲ訪肉ス、シ、

英國側面

昭示

北條

三月十三日 收着

田中外務大臣

芳沢公使

第三〇八号

德電第三〇九号云云

三月十二日 午後 英國代理公使 来訪 南京事件ニ付

ラムソンニハ 南京政府当局ト交渉セル力ニ付テハ

上海日本總領事ハ 詳細ニ 承知シ 居ルト 思フ 尚

一通リ 説明 爲 来リト 述ベタルニ 付 日本總領事

ハ 英國側力 交渉ヲ シンソアル 事ハ 承知セル 也 詳細

ノ 事ハ 承知セサル 已ノ 如ク 又 日本總領事ハ 南京政

MARUZEN

付者局より交渉ヲ受ケル事ハ外務大臣及本使ニ電
 報アリタルモ日本政府ハ南京政府ノ提議ニ對シ未タ
 決定ヲ与ヘス英國側ノ交渉ハ如何ナリヤト問
 ヒ、之ニ同代理公使ハ三莫アリ一謝罪ヲニ処罰ヲ三
 賠償ニナリ謝罪ニ付テハ南京側ハ留甚ナル遺憾ノ
 意ヲ表スルニ異存無キモ目下ハ南京政府当局ハ本
 伴當時ニハ(脱)居ラズ且當時事件ノ關係セム不良分子
 ハ孰レモ除キセリタリト云ヒ居リ又処罰ニ付テハ誰々
 ノ處罰スルト云フ事ヲ取極ニ掲記スル事ハ出来サル
 モ之ヲ別ニ附屬書ニ記スル事ハ差支無キモ程潛ノ処罰

二關シテハ南京政府ハ附屬ノ文書ニモ書アルヲヲ請
諸ス賠償ニ付テハ國際公法ニ從ヒ賠償スルニ云テカ國
際公法ト云テモ余リニ漠然タル故共同委員會ヲ任命
シテ之ヲ処理スルヲニ交渉ヲ進メテアリ尙在ニ其以外
ニハ英米二國ニ特殊ナル砲撃事件ヲ善後処置ヲ討
議シワツアリ南京政府ハ砲撃事件ニ付英國ニ陳
謝ヲ要求ス併シテラムソニハ砲撃事件ハ遺憾
ナル出来事ナルモ自衛ノ爲已ヲ得ス執リタル
措置ナリト云テ位ノ程迄ニ止メタキ者ナリ尙外ニ南
京政府ハ不平等條約ノ撤廃ヲ申出ラタルハ此由

題ニ付テハ「ラムソン」ノ意見トシテハ英國政府ノ政策
ハ今日迄声明セル如クハ此政策之基キテ *Responsibility*
and effective authorities 相キニ処理スル方針ニテ
交渉ニ応ジツアリト説明シタル故若シ日本側ニテ
詳細ヲ兼知シタキ希望ナレハ上海總領事ヨリ英國
總領事ニ申出テラルハ何時ニテモ説明スヘシト述
ベ尚平侯ノ廣岡ニ応ジテ只今ハ如何ニテ治力纏ルヤ
否ヤ五分五分ノ所ニテ斷言ハシ難ルモ英國政府ノ
兼認ヲ得ルハ取極締結ノ運ニ至ルヘシト答ヘタリ

佛國側友
及英國、諸
云

昭和3

北京

五月十三日
披露

田中外交大臣

芳沢公使

第三〇九号

上海英領事官宛 往電第一二九号ニ因リ

十二日午前佛國公使 来訪最近南京政村ヨリ南京ヲ

件ニ付上海佛國總領事ニ提議アリタリト云ハルニ付

本使ハ日本總領事ニ提議アリ只今日日本政府ニ於

テ考慮中ナルヲ貴公使ハ如何ニ考フルヤト問フニ

同公使ハ目下ハ事件發生當時ト事情ニ大ニ異ナル故

大概ハ此ニテ結末ヲ著クル方得第ナルヤニ自分ハ

考フト答へタルニ付本使も自方一己トレテ貴官一通
リ考へ居しリト述へタルニ同公使は英國の南京事件
結了の上更にオノ措置トシテ南京政府に承認ヲ
断行セサルヤト思ハルト述へタルニ付本使は右ハ何等
確實ナル根據ニ基クモノナリヤト尋ネタル処同公
使は否單ニ自方想像ニ止マルノミナルモ英國の漢口政
府ニ當テ態々北京公使館ヨリ多事官ヲ派遣セシ
メタル事アルカ故ニ此程各位ノ事ハ爲シ兼ねマレキ
ヤニ考フト述へタルニ本使は其位ノ事ハ或ハ実行スル
中モ知レサルモ假リニ右様ノ実行ヲ見ル場合ニ於テ

毛總領事ヲ復歸セシムルニ大差無ク日本ノ如キ
現ニ領土ヲ復歸セシムル實際上一別段ノ不自由ヲ感
セスト言ヒタル如ク同公使ハ領事官以外ニ外交官ヲ
一人ニテ毛差遣スルハ多少別種ノ意味ヲ發生スル
モノト思考スル旨答ヘタリ尙左ニ付往電ヲ三〇八号
英國代理公使ト南京事件ニ関シ會談後同代理公
使ニ對シ同事件章ヒニ結了スル上ハ英國トシテ公
使館員ヲ南京ニ派遣スルハ如キ事ヲ考慮中ナ
リヤト率直ニ尋ネタル如ク斯ノ如キ事ハ未タ考慮シ
居ラズト答ヘタリ

昭和3

上海

五月十七日 前着

田中外務大臣

矢田總領事

英國側文 第一五五号

往電 第一五五号 之 関

袁良ト会見 前支英交渉力果 半 袁ノ言ハ如ク

纏リ居ルヤ 一応確メ置ク 必要アリト 存シ 英國總領

事ヲ 訪問セシムル 折良ク 同總領事 訪問

方交渉ノ 模様ヲ 尋ヌタルニ 付 昨日 訓令ヲ 得テ

袁ト会見シ 今 日午後二時 再ニ 会合ノ 筈ナリ 何事

カ 纏マリタリ 即知ラセス 此ト 答ヘ 其ノ後 一英支交渉

〇〇〇
ノ模様ヲ尋ネタル処同總領事ハ十二日公使ヨリ仰テ
タル通り黄郛ハ南京ニ去リ十四日金師長黄郛ノ
「マツセイ」ニ着シテ来訪ニ来タ何事返答ヲ与フル
運ニナリ居ラサル旨簡單ニ傳達シ来レルニ付黄
郛上海ニ歸リタルモノト思ヒタルニ其ハ尙南京ニ在
リ中央政治会議ニ容易ク黄郛ノ協定案ヲ賛同セ
カル模様ニテ今日ニ至ルモ未タ何事回答ナシト答ヘ
タルニ付本官ハ袁良ノ言ニ依レハ貴下ハ近日公使
ニ随伴シテ南京ニ赴キ公文交換ヲナストナリ
居レリトノ事ナルカ事實ナリヤ、

(三)
不平等条約云云、一節ニ對スル回答文ニ關スル點都后

三點ナリ折返し説明シ置キタルハ、兩日中ニ何トカ也

別アルハ、シト云ハルニ付假令中國政府ノ承認素ルモ

南京政府ヨリ異存ナキ旨、返リ無キレハ南京行

ハ實現セサル功ナリヤ、表良ハ、二十日前ニ南京ニ

英國公使一行ヲ歡迎スルヲトナリ居トリヤト述ハ

タルニ二十日ハ何曜日ニ當リヤ、ト衣囊ヨリ日記帳ヲ

取出シテ目取りヲ彌ハ等シテ暖昧ニ言葉ヲ濁シタ

ルヲ以テ本意ニ強テ追及セサリキ

右會見ノ印象ニ依リ英國總領事ハ中國政府ノ承認

手取リタルヲ以テ其内日本側ニテ
該ヲ進メラレハセ
スヤトノ懸念ヲ探リニ来レルモノト察セラレタリ

昭和3

上海

三月十八日前着

田中外務大臣

矢田總領事

才一六〇号

往電才一五五号に、末尾「事實ナリヤ」と同電(一)の旨

頭ニ左記挿入アリタル

今朝「支那新聞」の明日出報、豫定ナリト報じ居レリ

ト真由ニタルニ実ハ未タ本國政府ノ承認ヲ得ス本

國政府ハ南京砲撃ニ関シ陳謝スル「ヲ喜ハサルカ

如ク真由ニ来レリト述、タテニ付真由ハ未レ大ナリ

ヤト更ニ突込ミタルニ外ニ賠償ニ関スル點

英國側支涉

二十二日芳決
公使英代理
公使ト会見
同代理公使
決

昭和3

北京

三月二十五日午後

田中外務大臣

芳決公使

三月二十五日

午後五時五十八分

英代理公使ト会見、際同代理公使の「ア
イト」ニ答ミ置カレタレト前墨中シタル
「アイト」ヨリ、轉電ニ依テ英國政府ハ前
回、訓令通り依然反對シ繼續ス、其旨訓令
ニ越シタル模様ナリト述ハタルニ付本使
ハ左ノ反對ハ矢張砲撃友不平等
條約改訂ノ二點ナリト尋ナタルニ然リト答
ハタ

條約改訂ノ二點ナリト尋ナタルニ然リト答ハタ

ルニ付本使ハ条約改訂ニ付テハ日本政府ヲ南京事件ト
ハ何事関係ナシト見地ニテ反對シ居レリト述ヘタル如
代理公使ハ美國政府ニ全然之ト同意見ナリト答ヘ
上此ハ上ハ「ラハソ」ニ於テ如何ナル態ニ出ツ
同公使ハ爲ス処ヲ觀望スルニミナリト附言セリ

美國側支
例證並三封
スル論評

昭和3

上海本

三月二十六日收着

田中外交大臣

矢田總領事

外一八二号

美国公使、南京事件交渉ノ行儀ハヤ二十四日夜急

遽開平号ニ乗込ミ北上セルカ右ニ開スル二十一日

北支日報論説大意ヲ通

同公使方北京ニ引揚クルノ案儀無キニ至レル下ノ遺

憾ナリ其原因ハ解決案項中ニ南京砲撃及条

約改訂ノ件ヲ入ルルコトヲ美国政府力許容セザル

ニアル由ナルカ南京政府力南京事件ノ責任ヲ負担ス

ル一方能ヲ限リ面子ヲ保タムトスルハ案ニ居ル処ナルモ
面子ヲ維持シ威信ヲ立直ス最良有効ノ方法ハ他ノ件
ヲ提出スルヲナシニ本件自体ノ解決ヲ計ルニナリ
南京カ砲撃ニ関シ主張スルハ關係國ニ教ヲ求ム
ルモノナリ條約改訂ハ本件ニ關係ナク而カモ石
スル美國ノ態度ハ屬屬々々聲明セラルル通り
ナルカ今日ノ支那ノ状態ニナリ南京何レノ政府トモ
條約改訂ヲ約束スルヲ不可能ナリ本件交渉ノ停
頓ハ又南京側ノ意見ニ依リ居ルコトモ甚基固ス
然レテ英國公使ノ南京行ハ機宜ニ適スルモノト云フ

トク乍併解決ノ途ハ閉塞サレタルニ非ス新聞報ニ依レ
ハ解決ハ延期セウレタルモ英支トモ強解ヲ増ダササ
ラハトリ焦慮スルト同時ニ可及的速ニ解決ヲ
計ラハトリ顧慮シ居ル由ナルカモ茲ニ看過スルコトヲ
許ササル一事ハ英國ハ被害者ニシテ而カモ凡ソル
報復手段ヲ有シ乍ラ支那人ニ支誼ヲ示ス夕ノ隙
忍シ来レルコト是ナリ

英國側交

昭和

東京市役所

三月廿五日

田中外務大臣

芳沢公使

才三十四号

往電才三十五号二関

二十日英國代理公使來訪其後英國政府ノ利

二基才三十四号二関ニヨリ申上ル結果黃鄧

改撃及不平等條約問題ヲ記載セサルコトトハ

一ノト交換ノ必要ヲ示カラムト云フ力如キ態

二才三十四号ニ終ニ陳ノ二十五日既ニ上海ヲ出

皇島經田二十八日帰燕ノ後古十九日自内務

尚中使より二十番^{上海}路透電報に依りて今後ハート
及「ヒエウレツト」ニ際して交渉ヲ繼續スル由ナル事案ナ
リヤト尋ねタル処同代理公使ハ先づ右様ノコトナ
ル中ニ測り難キモ要組ハ「ラ」帰任ノ上御聴取アリ
タルと答へたり。

昭和3

上海

三月三十日 夜看

田中外務大臣

去日總領了

升一九四号

三十日午米國公使本官ニ面会シタトコトニ付

往訪シタルニ美佛兩國總領了王招カレ居リ其席

二十九日

上同公使ハ南京了仲ニ関シ昨日午前十時ヨリ

今朝一時ニ至ル迄十餘時亙リ互ル黄郛ト対話

ノ結果漸ク交渉纏マリタリト述レ原稿ヲ朗讀

シ今日午後二時清書ノ上署名ヲ了スレト語リ尚

公文一寫ハ出来ぬヲ送附スハ中カ発表ニ関シテハ米

支兩國同時に発表するにせし其の理由期日未だ
打合が了せられ外内には絶対秘密を守らるべし
附言せしる取極の要點を如し

一、黄郛より(1)南京事件に關し南京政府は其
責を負ひ賠償を爲し將來米國人に對せん暴

行を取締らん、本旨を述べたる公文(大佐往電

中)三号前(南京)の同(1)米國軍艦砲撃を南

に米國政府、遺憾の意を表するに求めたる公文

(1)條約改訂に關する公文の三通を米國公使に送る

米國公使は(1)に對し南京政府に懸念を發表し

夕ル禁令内容等ヲ記述シタル長文、回答ヲ与ヘ
 (四)ニ對シテハ砲撃ハ當時居民保護ノ為ニ已ルヲ
 得サル措置ナリ事情ヲ詳細記述シタル後「米
 國政府ハ深ク遺憾トス (deeply deplore)」云々ノ文字
 アル文章ヲ以テ結ヘル回答ヲ与ヘ(一)ニ對シテハ昨
 年ノ米國々務卿ハ声明書ヲ引用シテ大體英國
 案ノ趣旨ニテ要ニ之ヲミテ長文ノ回答ヲ与ヘ(二)
 損害賠償ニ付テハ双方ヨリ二名宛ニ調査員ヲ
 任命シ差シ彈疆ラサル時ハ第三國ノモノヲ加フルコ
 ト等々大體英國案ノ趣旨ニ基キ覽書ト爲シ

但し領事館及領事館員ノ賠償額ハ調査委員ノ査定ヲ
要セサルヲトセリ

(二) 黄郛ニ対スル「アトリス」ハ His Excellency General

Wang Fu Minister for Foreign Affairs of at
Nanking トナル国民政府ナル文字ヲ避ケタリ。

昭和3

東京

三月廿一日前着

田中外務大臣

若槻公使

卯三八九号

往電第 五七四号 之 関之

廿八日帰京之タレ 美国公使、廿九日午、使ヲ来訪先

以、二ヶ月間ノ旅行中愉快モアリ又非常ニ苦勞ナ

経験ナリヲ嘗メタリト前星ニテ南京下件ニ関

シテハ南京側ト交渉ノ決断ハ逐一其都合本國政

社ニ電報シタルモ最終ノ腕曲途ハ何奇反對ノ意

思表ホナカリニ此最後ニ至リテ砲撃早ク伸出ス

平等條約ノ二件ニ關スル協定否認ノ電報ニ接シ自方
ニ非常ニ苦境ニ立ケタル力ニカ善法措置トシテ
二個ノ案ニ付先右ト協定セリ亦一案ハ砲撃ニ付
及不平等條約ニ關スル件ヲ一切公文中ヨリ削除スル
コトニ、レテ右ハ自方ヨリ提案シタルモノナル豫期ノ
通り南京側ニ於テハ直ニ不同意ヲ表明セリ亦二案
ハ黃郛ノ一友人ヨリ提案トシテ提案出シタルモノニ
シテ南京事件解決ニ關スル公文ハ一切之ヲ撤回シ
其代リ南京政府ヨリ軍ニ付五ノ命令 (mandate)
ヲ交付スルトシ、亦一ハ桂祖涵逮捕令ヲ二ハ外國人

生命財産保護令（右命令ニ於テ南京政府ハ英國側
ニ對シ損害賠償ヲ承認シ且賠償委員會ヲ設ケ賠償ヲ
拂フ処理セシム）トシ其代リ英國側ヨリ不公平
條約ニ關シ何等カノ言明ヲ与フルトスト言フニ在
リ右ニ付テハ黃郛ハ執行委員會ノ議ヲ纏ルル為
四十時ヲ猶豫ヲ希望シタルモ自今ハ滞在ヲ延期
スルヲ不得策ナルヲ考ヘ後圓リ「バートン」ニ法シ
出発シタル海軍ニテ「ヒュレツト」ハ尚上海ニ居殘リ
居シリト現狀シタリ

帝國側交渉
 公文署名
 三月三十日
 (四月四日発表)

昭和3

上海
本省

三月三十日 校看

田中外務大臣

矢田總領事

才一九七号

往電才一九四号之周之

三十一日朝米國總領事、本官ニ對シ昨日公文ノ署名

五十四日

ヲ了シタル旨ヲ述、右公文寫リ手附セリ右ハ長文

ナルノミナラス米國公使ノ回答中ニ、左那公文ノ趣旨

ヲ繰返シアルニ付不取敢別電才一九八号才一九九号

及才二〇〇号ヲ以テ右回答ノミ電報ス賠償ニ關スル

覺署ニ未タ完了セザル由ナリ、

米國總領事、昨日公文、全文ヲ北京へ打電請ナレハ
芳沢公使ハ米國公使館ヨリ本日寫ヲ入手セラルル筈ナ
リト、コトニ付別電ニ同公使ニ電報ス尙發表ハ米國公使
ノ南京行決定セバ南京ニ殆子為スコトニナリ居ナリ若シ
南京行ヲ見合ストナレバ四月一日夜上海ニテ發表スハ
レト、ナリ

昭和3

上海
本省

三月三十一日 收着

田中事務大臣

矢田總領事

才二〇二号

往電才一九七号 米支交渉ニ関シ

一、英國總領事曰ク支那側ハ我等ニ譲歩セザリシ點ヲ

米國ニ譲歩シタル點アリ 確ニ英支交渉ヨリモ良クナリ

居レリ 自今モ右米國ノ例ニ倣ヒ解決スルヲ得策アリ

ト信ス 英國公使モ勿論同意見ナルヘシ 尤モ米國政府

ヨリハ未タ何事利否ナシ

二、佛伊兩國總領事ハ本官ニ對シ日本政府ハ如何ニセラ

ルルヤト廣内ニタルニ付支那側ニ於テ条約内題ヲ放
棄セザルニ於テ日本政府ハ此ノ際強ク解決セザルニ
ト答ハケルニ兩總領事ハ我等ハ損害歸甚キコトニテモ
アリ条約云々ハ左ニテ重要トモ思考セラレサルニ付
國ニ追従スル外無カルヘシト述ベタリ

昭和3

北京
本省

四月六日 稿 局

田中外務大臣

芳沢公使

牙四二九号

往電牙四一五号ニ関シ

南京事件ニ関スル米支交換公文發表セラルニ以來當

地諸方面ノ話題ニトリ居ル処英米人ノ觀察ヲ綜合

スルニ先ツ英國公使ハ五日三國公使會議ノ爲事館ニ屬

テ由使ニ對シ米國側力深ク遺憾ノ意ヲ表シタルニ米

國海軍ノ砲撃自作ニ非スルヲ寧以砲撃ノ已リテ

ニ至トルヲ熊ノ聲ニ對スルモノナリ故ニ米支今回ノ解

決ハ一進歩ナリト見做シ得、ト云リ、又米國公使館員
已著館員ニ對シ同様ノ觀測ヲ爲シ居タル由ナルモ一般
英人側ハ大體ニ於テ

(一)「マクマレ」ハ英支交渉ノ決裂ニ依リ漸夫ノ利ヲ

得タルモノナルカ其ノ結果英支有今迄ノ交渉ノ窮

地ニ陷レ、レム、ク

(二)砲撃ニ關シテハ李那側ハ多分米國側力陳謝セ

リト宣傳ス、ク

(三)米支賠償委員會、如キハ過去ノ經驗ニ鑑ミ到

底成果ヲ擧ケ難カル、ク

(四) 但条約改訂ニ関スル公文ハ、ソレハ言明ヲ繰返ス

ニ過キサルヲ故ニ無害ナルニシ

ト觀測ニ居ルモノ、如ク別電ヲ四三〇号京津ヲ

イムス所論ノ如キヲ、ライハース、儀論事迄

トハ行カサルモノ、一般ニ米國側拔驅ケ、功名ニ相當不

情ヲ感じ居ルモノ、如キ処米人等ニ、一般ニ別電ヲ

四三〇号北京ヲリ、如ク、所論ノ如ク、スクマレ、ノ成

力ヲ証歌シ居ルモノ、亦一方上海總領事、米國下宛電報

ヲ二〇九号、ノリス、ヤ、ソ、リ、ニ、ス、所論

ニ對シテ、モ、ラ、レ、タ、ル、為、カ、ソ、レ、タ、ル、モ、同、様、報、道、者、ト、シ、テ、大、統

飲 選 譽ノ 為「マ」ハ 解決リ 余 儀ナク セテ タリト 推
測レ 砲撃 三 関スル 公文ノ 文事 句ヲ 慥
マサルモノ 市 鮮
カウサルカ 如シ 一般 新聞 論調 別 電大

南京政府外交部長書翰

「密年五月二十四日」南京政府外交部長書翰
外交部、米國公使、對國民政府、幸、米友兩國民
間之存在、極大之友誼的、感情、助長之、
「欲」本年二月六日以來、閣下、本宮、一、
行、上、之、討論、結果、意見、一致、見、之、所、二、從、
該、之、伸、一、即時、解決、之、為、之、用意、之、一、之、通、告、之、
此、一、光、榮、之、有、之、

外交部長、米國各旗、及米國政府、公、式、代、表、者、之、對、之、

非難。米國領事館。一蒙此財政上、損失並在留
米國人。對之。加へられん。傷害及物損上、
損害。付國民政府。名。於。亞米利加合衆國政府
之。對。心。誠。意。ヲ。以。深。甚。ナル。遺憾。一。意。ヲ。表明
スル。光。榮。ヲ。有。ス。
本。力。事。件。の。調。査。一。結。果。國民政府。南京。建。都。前。金。ノ
共。産。主。義。者。ノ。煽。動。ニ。依。リ。ヲ。起。リ。タ。ル。事。一。ヲ。判。明
シ。タル。也。國民政府。ハ。右。ニ。不。拘。本。事。件。之。對。シ。責。任。ヲ。負
國民政府。ハ。其。一。即。既。定。方。針。之。從。ヒ。テ。亞。米。國。人。ノ。生。命
及。財。産。一。繼。續。的。且。有。效。ナル。保。護。ニ。付。文。武。官。憲。

二對シ既ニ一冉ナラス命令ヲ麾ンタリ共產主義者
 故其ノ米支兩國民間ノ友好關係ヲ阻害セントスル邪惡
 ナル勢力ヲ驅逐シタルニ依リ國民政府ハ外國人保護
 ノ任務力爾今一層容易トナルヘキヲ信シ且國
 民政府ハ米國人ノ生命又ハ利益ヲ對シ再ヒ斯
 ヲ如キ暴行又ハ運動ノ行ハレサルヘキヲ特ニ約ス
 右ニ關聯シ外交部長ハ共產主義者ニ煽動セウレテ
 悲シムヘキ本事件ニ參加シタル特遣師團ノ軍隊ハ
 既ニ解散セウタルヲ附言ス國民政府ハ尚犯行
 ニ加ハレタル兵士及其他ノ者ニ犯罪ノ再發動ナル措置

ヲ執レリ。

充分ニ認メラルレタル國際法ノ原則ニ從ヒ國民政府ニ
南京ニ駐サル米國領事館、其館員、在米米國人及
其ノ財産ニ加ハラレタル總テ、身体上、傷害及物質
上ノ損害ニ對シ充分ナル賠償ヲ爲スルヲ約ス。
國民政府ハ此ノ目的ノ爲ニ在米米國人ノ關係者那人
ヨリ受ケタル實際ノ傷害及損害ヲ審査シ各場合
ニ付先支拂フヘキ賠償額ヲ査定スヘキ米支共同委
員會ヲ設置セムルヲ提議ス。

駐米米國公使 ジェー・サイ・エナ・マクマレー閣下、

米國公使回答

米國公使は左に通り、本日附外交部長書翰ヲ敬承セリ、
「客年三月二十四日、南京條件ニ關シ國民政府外交部
長ハ米國公使ニ對シ國民政府ハ華ニ米支兩國民間
ニ存在スル種ナリ友誼的ナル感情ヲ培養セシコトヲ欲シ
本年二月二十六日以来閣下ト本官ト、同一行ハレタル
討議ノ結果意見、一致ヲ見タル所ニ從ヒ條件、
即時解決ヲ爲ス用意アルヲ通告スル、光榮ヲ有ス、
外交部長ハ米國々旗及米國政府公式代表者ニ對スル
お世、米國領事館ノ蒙ル財産上ノ損失並在電

米國人^ニ對シテ加ヘラレタル
身體上ノ傷害及物領上ノ
損害ニ付國民政府、名ニ於テ
重罪刑加ヘ各國民政
府^ニ對シテ強心強意ヲ以テ
深甚ナル遺憾ノ意ヲ表ス
ル^ル先榮ヲ有ス

本事件ハ調査ノ結果國民政府南京建都前
共黨主カ義者ノ煽動ニ依リテ起リタルモノナルヲ
判明シタルモ國民政府ハ右ニ拘ラス本事件^ニ對シテ
責任ヲ負フ

國民政府ハ其ノ既定方針^ニ從ヒ在支米國人ノ生命
及財產ノ繼續的且有効ナル保護ニ付文武官憲^ニ

對之既一再下命令ヲ發シテ其共產主義者及
其ノ親友兩國民間ノ友好關係ヲ阻害セシトスル
邪惡ナル勢力ヲ驅逐シタルニ依リ國民政府ハ外國
人保護ノ任務カ爾今一層容易ナタルヘキナリ
信ニ且國民政府ハ帝國人ノ生命又ハ正當ナル利益
ニ對シ再ヒ斯クノ如キ暴行又ハ運動ノ行ハレサル
ヘキナリ特ニ約ス
右ニ關シ外交部長ハ共產主義者之運動セラレテ
悲シムヘキ事ヲ件ニ參加シタル特定師團ノ軍隊ハ
既ニ解散セラレタルナリ附言ス國民政府ハ尚如此

加ハリタル兵士及其他ノ者ノ処罰ノ爲有効ナル措
置ヲ執リ、

充分ニ認メラレタル國際法ノ原則ニ従ヒ國民政府ハ南
京ニ於ケル米國領了館、其ノ館員、在留米國人及
其ノ財産ニ加ヘラレタル總テノ身体上ノ障害及物
質上ノ損害ニ對シ充分ナル賠償ヲ爲スルヲ約ス。

國民政府ハ此ノ目的ノ爲ニ在留米國人ノ關係支那
人ヨリ受ケル實際ノ傷害及損害ヲ審査シ各
場合ニ付支拂フハキ賠償額ヲ査定スハキ米支共
同委員會ヲ設置セムルヲ提議ス。

米國公使、破壞的勢力、煽動ヲ受ケタル場合ニ於テ
其邦國民ノ固有ノ正義心ト廉恥心トヲ充テテ現
南京事件ヲ支邦國民ノ凡ソル思慮ヲ階級ニ惹起
セシ遺憾ノ念ト屈辱ノ感トヲ深ク豫案ニ且事件有
罪者ノ処罪ノ罪ノ問スル言廣ク最近ノ機会ニ於テ完全ニ
履行セラル、事トトテ殊ニ事件ニ對シ個人的ニ責任アル
枯祖ニ付テ一ヲ信シ本事件中ヨリ生シタル諸問題
ノ決定的解決、為外交部長書翰中ニ記述セラル
此諸事件ヲ本國政府ノ爲ニ承諾ス、
米國政府、事件解決力強意ヲ以テ爲サレタルコトヲ

確信ニ步支兩國民固ニ關係ノ他ノ方面ニ移リ南京官
憲ニ依リ示サルルコトヲ豫期シ得ハ平議竟ト好意ノ
尺交ヲ與フルモノトシテ前記解決條件ノ忠實ナル履
行ヲ期待ス

南京政府外交部長

黃郛閣下

南京政府外交部長書翰

一九四七年三月二十四日、南京事件ヨリ生シタル諸
問題ノ解決ニ付、本日交換シタル公文ニ關シ國民政
府外交部長リ事件當日當時入港砲泊中ノ米國軍
艦「アー」及「ポール」ニカ南京「ソコニー」兵士ニ向シテ
砲火ヲ南キタル事實ニ對シ米國公使ノ注意ヲ喚起スル
光榮ヲ有ス右事實ニ鑑ミ國民政府ハ米國政府力
右ノ行為ニ付遺憾ノ意ヲ表セン「」切ニ希望ス、

駐米米國公使

シチー、グー、エー、マクマレー閣下、

米國公使回答一訳文

米國公使、千九百二十七年三月二十四日、當時入港碇泊
中ノ米國軍艦「ノリ」及「ポレスト」ノ力南主「スタニタ」
ト石油会社「丘」ニ向ツテ砲火ヲ開キタル事實ヲ述ヘ
且米國政府力此ノ行為ニ付遺憾ノ意ヲ表セ、コトヲ
希望セル本日附外交部長書翰ヲ敬呈セリ。
右ニ對スル回答トシテ、米國公使、後行為ハ事實ニ於
テ嚴ニ米國領事其ノ家族及被負カ其ノ他ノ多加ノ者
ト共ニ不規律ナル兵隊ノ襲撃ヲ逃レニカ為ニ遁ケ入
リタル家屋、直接近隣地ニ限ラレタル掩護砲火ニシテ

之カ右ノ人質ノ生命ヲ切迫セル危險ヨリ救フ唯一ノ手段
タリレノミナラス又生命ノ現實的危險ノ中ニ在リタル他ノ
南京在留米國人ノ撤退ヲ可能ナラシメタルモノナルコトヲ
指摘セサルヲ得ス、

故ニ米國政府ハ其ノ統制ヲ起エタル諸事情カ南京在留
米國市民ノ生命保護ノ爲メ斯ク如キ手段ヲ執ルノ已ム
ナキニ至ラシメタルヲ深く悲シム故チタルモ米國軍艦
トシテハ其ノ執リタル行動ニ代ハルハキ手段ナカリシモ
ト思惟ス、

南京政府外交部長

黃郛閣下、

南京政府外交部長書翰

十九百二十七年三月二十四日、南京事件ヨリ生シタル
諸問題ノ解決ニ付本日交換シタル公文ニ關シ國民政府
外交部長ハ支那國ト合衆國トノ間ノ外交關係ニ一新
紀元ノ開カルヘキコトヲ希望シ且平等友誼土主權相
米互尊重ヲ基礎トスル現存條約改訂及諸懸案
解決ノ爲更ニ措置ヲ執ラムコトヲ提議スルノ先策ヲ
有ス。

駐支米國公使

シエー、グー、エー、マクマレー閣下、

米國公使回答

米國公使、合衆國ト支那國トノ間ノ外交關係ニ一新紀
元ノ開カクハ、中コト並ニ平等領土主權相互尊重ノ
基礎トスル現在條約改訂及諸懸案解決ノ爲
更ニ措置ヲ執ラコトヲ希望セル本日附外交部長書
翰ヲ敬呈セリ。

條約改訂ノ問題、南京事件ニ基ク米國政府及共
ノ國民ニ對スル賠償ノ問題ニ關聯スルモノト思考シ
難キモ米國公使、既ニ客月外交部長トノ會議ニ於
テ此ノ點ニ關シ述ビ置キタル如ク此ノ際言明スルニ若
シ

モノニアラス、

合衆國ト支那國トノ間ニ存スル傳統的友誼ハ茲ニ之ヲ強クシテ要スル、

米國政府カ終始一貫シテ採リ来レル行動方針及チ

九百二十七年一月二十七日國務長官ノ為シタル政策ノ

聲明ニ依リテモ明ナルカ如ク吾等國政府及人民

ハ支那國民自身ノ健全ナル國民生活ヲ發展セント

且能ク限リ例外的性質ノ義務ニ拘束セラルサル

主權ニ對スル要望ノ實現セントスル支那國民ノ希

望ニ對シ滿腔ノ同情ヲ有スルモノナリ之カ為テ米國

人

○ ○

人

○ ○

政府の初期、条約中、之斯ル事項、挿入ヲ必要ナリ
シタル諸状態、改善力不必要又ハ不適當トナリタル
条約、規定ヲ正當ナル形式ニ依リ且相互同意ヲ以テ
改行スル機会ヲ時々與フルニ至ラハテヲ希望ス、
此、目的、爲米國政府ハ其國力其ノ希望スル条約
團信ノ條修正ニ附随シテ當然負フコトトナルハ、
各種ノ義務ヲ滿意ヲ以テ現實ニ履行ス、
ヲ保護スルニ是レ程交ニ於テ其國國民ヲ代表シ
且實際ノ權力ヲ行使スル政府ノ發現スルニ至ラハテ
希望ス、

南京政府外交部長

黃郛閣下

昭和三年八月一日着

在美依名利代理大使電

大正宛電報

中一五四号(平)一拔萃

三十日下院本會議之於今、其那問題、廣内之對之

外相、米國、何等他國、下相強出、之、對支覺書、

送り、又、條約、締結、タル、モノ、ナル、カ、英國、ト、云、ハ、諸國

ニ、先、之、事、ヲ、為、サ、ン、ト、シ、望、ム、モノ、ニ、ア、ラ、ス、既、ニ、對、支

政策、大綱、ハ、之、ヲ、公表、シ、ア、レ、ハ、南京事件、サ、ハ、片、付、カ、

直、ニ、右、大綱、ニ、ヨ、リ、商、議、ヲ、開始、ス、ル、ヲ、得、ハ、之、南京事

件、ニ、付、テ、ハ、最近、國民、政府、對、例、ヨ、リ、上海、及、南京、總、領、事

二新ニ商議シ来レル処アリ因下折角交渉中ナリト
 答弁シタルカ同院豫算委員会ニ于テ左様、質問アリ
 之ニ對シ外相ハ國民政府トハ交渉ハ南京事件ノ解
 決ヲ以テ開始セラルハシ其那ニ於ケル生命財産安全
 トナリ且文明國數トシテモ義務ヲ履行スルハ能力アリ
 ル政府ハ樹立ヲ待テ旧條約ヲ新條約時代ニ適応
 スル様改訂シ以テ支那ノ要理ニ副ハシ用意スルナ
 及在支軍隊モ近ク之ヲ更ニ減少スルハ望ミルナ等
 ナ説示レタリ
 以下略

昭和三年八月九日着田中外務大臣宛在美使名刺
代理大使来電寫

第一六〇号

佐原第一五八号ニ関シ

ハ其「エルスレイ」に南京事件ハ支那側ヨリ折レテ事

實上解決ニ至リ最早何時ニ至ル手續ヲ了シ得ル

事トナレリト語レリ尚右解決ノ性ハ英國側ニ在リ

且ニ一般問題ノ交渉ニナル用意アル次第ナリヤトノ希望

ノ質問ニ對レテハ右ニ付テハ英國側ヨリ進ニテ何等ノ

措置ニ出テス何レ支那側ヨリ「フリープレス」ハ「レト」思ハス

ニ付其ノ上ニテ態ナリ決スルトトナルベシト答ヘタリ

昭和3

南京

八月十日 收局

田中外務大臣

閣下 領了

第三六六号

德電第三六五号ニ関シ

英國總領事「バートン」氏本日午後四時東京南京
下件解決、調停ヲ了ス不取敢

昭和3

倫敦

八月十二日午前

田中外務大臣

佐分利代理大使

第167号

十日 駐東部局長 面会ノ節 同官ハ南京ノ件 解決ニ

ノ電報ヲ示シタルニ付 條約改訂時ニ関シテ *in due*

course ト云ハ 如何ナル意味ヲ含ムニタルモノナリト

説明シタル如キニ 曖昧ノ文字ナルヲ英國側ハ 心持シ答

ハ 公文ハ 昨午十二月及昨午一月ノ電書以上ニ一歩

已進ミ居ルモノニ非ス 條約問題等ニ付テハ 英國ハ

已急力下例シ支那側ヨリ 関税肉照 殊ニ十月一日 中國

附加税適用肉類ニ付申出奉ルハ中ニ付夫レヲ待ツ
積リナリトテ、後電外一六〇号未段ツウエルヲト同
趣旨ノ事ヲ確シリ

佛支

P.V.M. 27 14/14

昭和3

外務省

九月十一日 前着

田中外務大臣

芳沢公使

第一二八九号

佛國代理公使より日本使に對し佛支南京事件解決

案の南京政府より内閣に商榷見解し王正廷に於て毛

之を調停する旨を言明し其の原案の政情安定の上

に條約を改正し承認するに於て居りタルに拘らず王

最爲之より條約改正に關し此の階直に改正の條約を

之に修正し之を旨より申出タルに付本國政府に請訓

レタルに於て同日南京政府より佛國政府に合意を如中文字

向一修函ニ応スル能ハサル旨同訓ニ来リタルニ付其旨
直ニ王ニ電報シタルカ今日迄何事迄電ニ接セサル次第
ナリト接リタリ尚同代理公使ニ歸館後直ニ本館使ニ
特ニ電話ヲ以テ右張紙ノ次第ニ極秘ニ附シ墨カレ交テ
旨精請求ニ来リタルニ付其旨御意ニ相成云々

昭和三年九月二十九日着

在南京周车 领了来电

才四九二号 (暗) (按草)

昨二十七日外交部、发表也、此九、通

一、伊支湖南京了件、见全之解决、全文到著也

了候、了、发表、了、条、约、商、议、毛、甫、始、了、得、了、

昭和3

本省

九月廿五日

田中外務大臣

芳沢公使

第一三四三号

二十日伊國公使館負、須磨ニテ、
南京事件ニ付、米英ト略同ノ形式ニテ協定成リ
上海總領事ニ於テ既ニ假調印ヲ了スル趣ナルカ
目下公文上海ヨリ郵送中ナルニ付、細目ニ来タ
テ、伊國公使館ニ送致シ、公使ニ於テ正式調印ヲ爲ス
形式トナリ居ル処、右交渉ノ成立ハ、
條約改正問題ニ何等ノ影響

十才モ一ト考へ居リ伊國側トレテ、
中肉題ニ付依然従来
ノ態アリ持續シツテ在リ尤モ之カ
交渉ノ爲公使自
身何レ南下ノ豫定ナルカ交渉開始期
ニ目下、然
未定ナル趣ナリ

尚同ク佛國代
理公使ノ本使ニ
語ルルニ依リ、
佛國ハ斷
然南東ノ件解決
ノ希望ヲ放棄シ
本件ハ其ノ
終トナリ居レル
趣ナリ

昭和3

北平

十月十二日 前着

田中外務大臣

芳沢公使

第一四二号

伊支

佐電第一三四三号 関

伊國公使「伊支南京事件解決協定」九月三十日

正式調印、上南京政府に送付、右「既」十月九日

到着した、由、同公使より右協定、密車使、内

覽、供、之、来、した、右協定、内容、英米、協定

ト比較、した、砲撃、友邦、問題、関スル、ト、ト、

外一般解決案、二付、二、趣旨、二、於、大、作、差、異、十、

右條、項、共、簡、單、ニ、ナ、リ、居、シ、リ、何、レ、致、意、セ、ウ、ル、由、ニ、付、電、報、ヲ、差、
押、ハ、郵、送、ス、

MARUZEN II

他國側南第予件解決經過要領

目次

第一 第支國南京予件解決

第二 英支國南京予件解決

第三 伊支國南京予件解決

第四 佛支國南京予件解決

第一 米支間南京事件解決

在支米國公使、南京ニ至リ昭和三年二月二十日
以來南京政府莫外交部長ト本件解決案ニ關
シ交渉中ナリシ処三月ニ至リ交渉進捗シ三月
二十日上海ニ於テ右兩者間ニ左記ニ箇ノ公文署名交
換セラルタリ。

(一) 遺憾ノ表示、將來ノ保障及賠償ニ關スル交換公
文、南京政對外交部長ヨリ米國公使宛書翰(張
謇年三月二十四日)南京ニ傳ニ周シ國民政府外
交部長、米國公使ニ對シ國民政府ハ章ニ米支兩國

民間ニ存在スル極大ノ友誼的ナル感情ヲ助長セヨトシ
欲シ本年二月二十日以來閣下ト本官トノ間ニ行ヒレ
タル討議ノ結果意見ノ一致ヲ見タル所ニ從ヒ該
事件ノ即時解決ヲ爲ス用意アルナリヲ通告スル
ノ光榮ヲ有ス
外交部長ハ米國々族友米國政府公式代表者ニ
對シテ非禮ニ米國領ヲ蝕ミ蒙ルル財産上ノ損
失並ニ留米國人ニ對シテ加ヘラレタル身體上ノ傷
害及物質上ノ損害ニ付國民政府ハ各々斂テ重
刑加利合衆國政府ニ對シテ強心強意ヲ以テ擧出ス

に遺憾、意ヲ表明スル先達ヲ有ス、

本件ハ調査ノ結果國民政府南京建都前金ク共
産主義者ノ煽動ニ依リ予起リタルモノト判断
明シタルモ國民政府ハ右ニ拘ラス本件ニ對シ責任
ヲ負フ、

國民政府ハ其ノ既定方針ニ從ヒ在支米國人ノ生命及
財産ノ継続的ニ且有効ナル保護ニ付又武官憲ニ
對シ既ニ一再テ命令ヲ發シタリ、

共產主義者及其ノ米支兩國民間ノ友好關係ヲ阻
害セシトスル邪惡ナル勢力ヲ驅逐シタルニ依リ國民

政府ハ外國人保護ノ任務カ爾令一層容易トナル
ヲキコトヲ信シ且國民政府ハ東國人ノ生命又ハ口
當ナル利益ニ對シ再ビ斯クノ如キ果行又ハ運轉ノ
行ハレザルヘキコトヲ特ニ約ス

右ニ關聯シ外交部長ハ若毫主義者ニ煽動セウレテ
悲シムコト申事事件ニ參加シタル特定師團ノ軍隊ハ
即既ニ解散セウレタルコトヲ附言ス國民政府ハ當
事件ニ關係アル兵士及其他ノ者ノ処罰ノ爲有效ナル
措置ヲ執レリ

般ニ認メテタル國際法ノ原則ニ從ヒ國民政府ハ南京ニ

於ケル米國領事館、其、館員、在留米國人及其ノ財
産ニ加、リタル總テ、身體上ノ傷害及物質上ノ損害ニ
對シ充テタル賠償ヲ為スコトヲ約ス。國民政府ハ此ノ目的
為ニ在留米國人カ關係支那人ヨリ受ケタル實際ノ傷害及
損害ヲ審査シ、各場合ニ付支拂フベキ賠償額ヲ査定スベ
キ事支那委員會ヲ設置セリ。ヲ提議ス。

米國公使回答（訳文）

米國公使は左ノ通り本日付外交部長書翰ヲ敬答セリ、
（外交部長書翰全文）

米國公使ハ破壊的勢力、煽動ヲ受ケサレ場合ニ於ケル
支那國民ノ固有ノ正義心ト腐敗心トヲ充分ニ認メ南
京事件ハ支那國民ノ凡ソル思慮アル階級ニ惹起セ
ル遺憾、愈ト屈辱ノ感トヲ深ク深察シ、且本事件有
罪者、処罰ニ關スル言質カ最近ノ機会ニ於テ完全ニ履
行セラルヘキヲ殊ニ事件ニ對シ個人的ニ責任アル林祖
涵ニ付テリヲ信ジ本事件ヨリ生ジタル諸問題ノ決定

的解決、為外交部長書翰中²記述セラレタル諸条件ヲ

中國政府ノ為ニ承認ス、

中國政府ハ本件解決ヲ豫意ヲ以テ為サレタル事ヲ確

信シ右書翰ハ爾余、未支兩國民間ノ關係ニ關シ南

京官憲ニ依リ示サルルヲ豫期シ得、キ豫意ト如キ

ト、尺交ヲ與フルモノトシテ前記解決條件ノ忠實ナル

履行ヲ期待ス、

(二) 砲聲ニ關スル交換公文、

南京政府外交部長書翰(訳文)

千九百二十七年三月二十四日、南京事件ヨリ生シタル諸

問題、解決、付本日交換シタル公文ニ関シ國民政府外
交部長ハ本件當日當時ノ港砲台中ノ米國軍艦ノア及
レストニカ南京ソコニ在リト向ツテ砲火ヲ南キタル事實
ニ對シ米國公使ノ注意ヲ喚起スルノ光榮ヲ有ス、
右事實ニ鑑ミ國民政府ハ米國政府ノ右ノ行爲ニ付遺憾
ノ意ヲ表セ、一ノ切ニ希望ス、
米國公使回答（訳文）

米國公使ハ（中略）本日附外交部長書翰ヲ敬承セリ、
右ニ對スル回答トシテ、米國公使ハ該行爲ハ事實ニ
於テ嚴シク米國領事、其ノ家族及館員力其ノ他ノ多ク

ノ者ト共ニ不規律ナル兵隊ノ襲撃ヲ逃ヒンカ爲メ遁ケ
ハリタル家屋ノ直接近隣地ニ限ラレタル掩護砲火ニシテ
之カ右ノ負ノ生命ヲ切迫セン危險アリ救フ唯一ノ手段
タリシノミナラス又生命ノ現實的危險ノ中ニ在リタル他
ノ南京在留米國人ノ撤退ヲ可能ナラシメタルモノナルヲ
ヲ指摘セサルヲ得ス。

故ニ米國政府ハ其ノ統制ヲ越ヘタル諸事情カ南京在留
米國市民ノ生命保護ノ為斯クノ如キ手段ヲ執ルノ已
ムナキニ至ラシメタルヲ深ク悲シム故チナルニ米國軍艦ト
レゾハ其ノ執リタル行動ニ代ハルハナキ手段ナカリシモノト

思惟

(三) 條約改正ニ関スル交換公文

南京政府外交部長書翰一紙

千九百二十七年三月二十四日、南京より送られたる諸問題

ノ解決ニ付本日交換された公文ニ関シ、國民政府外交部

部長ハ支那國ト合衆國ト間ノ外交關係ニ新紀元ノ開カ

ルハキコトヲ希望シ且平等及領土主權相互尊重ヲ基礎

トスル現存條約改正及諸懸案解決ノ為ニ措置ヲ

執ラセリ提議スルノ先諾ヲ有ス

米國公使回答一紙

米國公使、(中略)本日附外交部長書翰ヲ敬呈セリ。
條約改訂ノ問題、南京事件ヲ基ク米國政府及其
國民ニ對スル賠償ノ問題ニ關聯スルモノト思考シ難キ
已、米國公使、既ニ^昨月外交部長ト會議ニ於テ、
此ノ點ニ關シ述、墨チタル處ヲ此ノ際言明スルニ意ヲ
ルモノニアラス。

合衆國ト支那國トノ間ニ存スル傳統的親友誼ハ茲ニ
之ヲ說クヲ要セス米國政府ノ終始一貫ニテ採リ來ル
行動方針及千九百二十七年一月二十七日國務長官
爲シタル政策ノ聲明ニヨリテ已明ナルカ如ク、合衆國政

府及人民、支那國民自身、健全ナル國民生活ヲ展
展セシメ且能ク限り例外的性質ノ義務ニ拘束セラル
サル主權ニ對スルニ要望ヲ實現セントスルニ支那國民ノ
希望ニ對シ滿腔ノ同情ヲ有スルモノナリ之カ爲米國
政府ノ初期ノ條約中ニ斯ル事項ノ挿入ヲ必要ナ
ラシメタル諸狀態ヲ改善セラル後ヲ不必要又ハ不
適當ナリタル條約ノ規定ヲ正當ナル形式ニ依リ且相
互ノ同情ヲ以テ改訂スル機会ヨリ時々生ズルニ至ラム
ヲ希望ス

此ノ目的、爲メ米國政府ハ支那國カ其ノ希望スル條約

關係ノ修訂ニ附テ隨ニ予當然負フ下トナシ、キ各種
ノ義務ヲ成就シ以テ現實ニ履行スルヘキヲ保障
スルニ足ル程云ニ於テ其那國民ヲ代表シ且實際ノ權
力ヲ行使スル政府ノ發現スルニ至リムトテ希望ス。

第二、英支間南京事件解決

英國公使ハ昭和三年二月中旬福州滞在、中、南京政
府ヨリ南京來訪方、申出ニ接シタルニ對シ南京
事件ノ解決ヲナシ訪内ニ得ル様取計ニ得ハ往
訪ス、レト回答シ右ニ依リ、本件交渉再用ノ緒ヲ
得タルヲ以テ豫メ在上海英國總領事ニ電知シ南
京政府側ト豫備交渉ヲ開始セシト翌年三月五日
上海ニ到リ爾後交渉回ニ直リ英外交部長ト本件
解決案ニ就テ折衝ヲ重シクシ七砲撃陳謝及
條約改訂問題ニ關シ双方ノ意見纏ラズ本件解

決、見込立タサルニ至レシヲ以テ英國公使ハ三月廿
四日一先ニ上海ヲ引揚テ帰燕セリ。

然ルニ三月末本件事発協定成立シ英本國政府ニ於テモ
大體米支協定ト同様ノ條件ニテ本件解決ヲ異存ナキ
ヲ決定セル趣趣ナルモ支那時局ノ爲交渉再開ノ運
ニ至ラサリニ於テ七月ニ到リ南京政府ヨリ本件交渉再
開ノ提議ニ接シ爾來在上海英國總領事ト南京政
府外交部トノ間ニ交渉進捗シ八月九日在上海英國總
領事ハ南京ニ到リ英國公使ニ代リテ至外交部長トノ
間ニ左記ノ箇ノ公文ヲ交換セリ。

一遺憾一表示、將來ノ保障及賠償ニ關スル交換公文
至外交部一長ヨリ「ラムゾン」公使宛書翰

(本件米支解決案ト同趣旨)

「ラムゾン」公使回答「英文」

本使「南京事件關係者」処罰及今後同様ノ事件力

を要セサル様注意ス、キ旨南京政府命令ノ発セテ

レタルヲトテ南キ在命令力急速且ツ十分ニ実行

サルル事ヲ信スルカ故ニ英國政府ヲ代表シテ貴官ノ

ノ一トヲ受取リコレヲ以テ一千九百二十七年四月十一日

前外交部長ニ送セラレタル文書ニ記載セラレタル要求
ノ解決セラレタルモト認ム

(二) 砲撃ニ関スル交換公文

王外交部長ヨリ「ラムポン」公使宛書翰

「米支解決案」ト同趣旨

「ラムポン」公使回答

「米支解決案」ト同趣旨、但シ米國公使回答末段

ニ「其ノ執リタル行動ニ代ルハ十年餘ヲ要カリシ」云云

トアルヲ本回答ニ於テハ「英國人ノ生命財産ノ保護

ノ為絶対ニ必要ナリシ」云云トナリ居ルヲ

(三) 条約改正ニ関スル交換公文

王外交部長ヨリ「ラ・ロッシ」公使宛書翰

(米支解決案ト同趣旨)

「ラ・ロッシ」公使回答

(前略)

英國政府ハ条約改正ニ関スル支那ノ要求ハ正当ナルヲ

認メ随ツテ一九百二十六年十二月十八日附宣言及ヒ

一九百二十七年一月二十八日附七箇ノ提案ニ於テ英

國政府ハ其ノ政策ヲ宣明シ且ツ之ヲ実施スヘシ

能フ限リ一年経テ採レリ、英國政府ハ常ニ支那

ニ関シテ採レル友好且以同情の態度ヲ更ニ明カナラシ
メシ爲英國政府ハ条約改正問題ニ関シ正式要負ヲ
任命シテ國民政府ト適宜ナル時期ニ於テ交渉ヲ開
始ス、之、英國政府ハ南京事件ノ故ヲ以テ去那ニ
對スル從前ヨリノ態度ヲ改メサルハ之ヲ以テ其条
約改正ニ關スル政策ニハ何一關係モナキ一個ノ挿話ト
看做サレリテ欲スルモノナリ、

第三 伊支間南京事件解決

伊國側ハ昭和三年三月初南京政府ヨリ本件交渉再
開ノ提議ニ接シタルカ主タル交渉ハ八月末ヨリ在上海伊
國總領事ト國民政府外交部才三司長トノ間ニ行ハレ
九月ニ至リ双方ノ意見合致シタルヲ以テ九月二十四日
附王外交部長書翰ニ對シ同云々ハ附在支伊國公使
ヨリ回差ヲ發シ本件解決セリ

南京事件ニ依リ伊國ノ蒙レル損害ハ僅カニ一名ノ
宣教師殺サレタルニミテ交換公文ハ砲撃及條約改
正ニ關スルモノナク單ニ遺憾ヲ表示・將來ノ保障及賠

償ニ関スルモノ、ニレテ本件米支、其支協定中ニ
Compensation in full トナリ居ルニ対比シ本協定
 ニハ *adequate compensation* トナリ居ル外取趣旨ニ
 於テ大抵前記ニ協定ト大差ナク唯一般ニ簡單ニナリ
 居レリ。

第四 佛支間南京事件解決

佛國側ハ昭和三年三月初南京政府ヨリ本件交渉再

開、提議ニ接シ一時在上海佛國總領事代理ト南

京政府外交部ト、間ニ本件交渉再開セラレタルモ

其後日中及英國ト南京政府ト、本件交渉行進ニ

鑑ミ一時形勢觀望中ナリシ処八月本件英支協

定成立後交渉進捗シ結果佛支間ニ於テ相違當意

見、懸隔大ナリシ條約改正案項ニ関シテ双方、意

見、一致シタルヲ以テ十月九日在上海佛國總領事

ハ佛國代理公使、名ニ於テ王外交部長ト、間ニ左記

公文ヲ交換セリ

(一) 遣使ノ表示、將來ノ保障及賠償ニ関スル交換公文。

王外交部長ヨリ佛國代理公使宛書翰並佛國代理

公使回答(十月一日附)

(大體ニ於テ本件米支、英支協定ト同趣旨ナルモ

稍簡單ナリ居レリ)

(二) 條約改正ニ関スル交換公文。

王外交部長ヨリ佛國代理公使宛書翰(十月九日附)

本部長ハ佛支兩國從來、親善ナル關係ヲ増進ス

ル爲貴國政府力更ニ平等及領土主權相互尊

皇ノ原則トシテ兩國方、現行條約、改訂ヲ行ヒ且懸
案ノ解決ノ爲手段ヲ執ラレシメテ要望ス。
佛國代理公使回答（十月九日附）（訳文）
廣部長カ九日附書翰ニ於テ佛中支現行條約ノ改
訂及懸案ノ解決ヲ希望スル旨表示サレタルニ對シ
本官ハ支那國民力其行政及司法制度ヲ健全ナル
基礎ノ下ニ發達セシメ且成ルハク特殊義務ノ爲制
限セラレサル國家主權ヲ實現セシメントスルノ熱望ニ
對シ佛國人民カ深甚ナル同情ヲ表スルモノナルヲ國
民政府ニ對シ確言シ得テキヲ信ス從テ佛國政府ハ

其ノ傳統タル自由主義ニ基キ佛國々民ノ支那國民
ニ對スル從來ノ友誼ヲ確認シ兩國間ノ現存條約
中不必要又ハ不適当トナル條項ヲ相互ノ合意ヲ以テ
正式ニ改訂スルノ機会ノ到ルヲ希望ス。